

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成28年4月1日  
(第76期) 至 平成29年3月31日

株式会社 **SCREEN** ホールディングス

京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1

E02288

第76期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

# 有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成29年6月28日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書及び内部統制監査報告書並びに監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。また、上記の有価証券報告書と同時に提出した確認書及び内部統制報告書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	12
第2 【事業の状況】	13
1 【業績等の概要】	13
2 【生産、受注及び販売の状況】	15
3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	16
4 【事業等のリスク】	19
5 【経営上の重要な契約等】	21
6 【研究開発活動】	21
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	22
第3 【設備の状況】	24
1 【設備投資等の概要】	24
2 【主要な設備の状況】	25
3 【設備の新設、除却等の計画】	27
第4 【提出会社の状況】	28
1 【株式等の状況】	28
(1) 【株式の総数等】	28
(2) 【新株予約権等の状況】	28
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	28
(4) 【ライツプランの内容】	28
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	28
(6) 【所有者別状況】	29
(7) 【大株主の状況】	29
(8) 【議決権の状況】	30
(9) 【ストックオプション制度の内容】	30
2 【自己株式の取得等の状況】	31
3 【配当政策】	32
4 【株価の推移】	33
5 【役員の状況】	34
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	40
第5 【経理の状況】	50
1 【連結財務諸表等】	51
(1) 【連結財務諸表】	51
(2) 【その他】	87
2 【財務諸表等】	88
(1) 【財務諸表】	88
(2) 【主な資産及び負債の内容】	99
(3) 【その他】	99
第6 【提出会社の株式事務の概要】	100
第7 【提出会社の参考情報】	101
1 【提出会社の親会社等の情報】	101
2 【その他の参考情報】	101
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	102

監査報告書

確認書

内部統制報告書

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月28日
【事業年度】	第76期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	株式会社SCREENホールディングス
【英訳名】	SCREEN Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 垣内 永次
【本店の所在の場所】	京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
【電話番号】	京都（075）414-7155（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理・財務室長 太田 祐史
【最寄りの連絡場所】	京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
【電話番号】	京都（075）414-7155（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理・財務室長 太田 祐史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	199,795	235,946	237,645	259,675	300,233
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△5,052	8,394	16,096	23,178	32,019
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (△) (百万円)	△11,333	5,418	12,122	18,815	24,168
包括利益 (百万円)	△6,030	14,261	24,017	11,567	28,011
純資産額 (百万円)	76,854	87,097	111,513	120,288	142,915
総資産額 (百万円)	232,390	232,376	249,516	270,093	300,659
1株当たり純資産額 (円)	1,606.19	1,821.13	2,335.65	2,533.41	3,040.79
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (△) (円)	△238.73	114.15	255.37	396.75	511.96
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	32.8	37.2	44.4	44.3	47.5
自己資本利益率 (%)	—	6.7	12.3	16.3	18.4
株価収益率 (倍)	—	20.9	17.8	11.2	16.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△15,319	24,702	△1,492	14,720	49,024
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△5,767	△4,201	△6,317	△2,557	△5,860
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	21,533	△29,301	△3,822	△2,845	△27,479
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	38,026	31,562	21,990	30,156	44,922
従業員数 (名)	4,955	4,968	5,082	5,182	5,422

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 半導体製造装置およびFPD製造装置の販売について、従来、出荷基準により収益を認識しておりましたが、第73期より、据付完了基準により収益を認識する方法に変更したため、第72期の関連する主要な経営指標等については、当該会計方針の変更を遡及修正した数値を記載しております。なお、第71期以前に係る累積的影響額については、第72期の期首の純資産額に反映させております。

3 第73期、第74期、第75期および第76期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第72期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 第72期における自己資本利益率および株価収益率は、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

6 平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第72期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額を算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高又は営業収益 (百万円)	165,871	191,281	99,456	21,587	21,483
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△5,033	8,412	3,068	6,260	5,741
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	△12,081	7,406	3,018	7,091	6,418
資本金 (百万円)	54,044	54,044	54,044	54,044	54,044
発行済株式総数 (千株)	253,974	253,974	253,974	253,974	50,794
純資産額 (百万円)	55,186	66,947	75,929	76,152	82,177
総資産額 (百万円)	209,900	210,946	180,334	191,594	195,936
1株当たり純資産額 (円)	1,162.51	1,410.31	1,599.65	1,612.43	1,749.84
1株当たり配当額 (円)	—	3.00	7.00	12.00	87.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (△) (円)	△254.49	156.03	63.58	149.53	135.96
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	26.3	31.7	42.1	39.7	41.9
自己資本利益率 (%)	—	12.1	4.2	9.3	8.1
株価収益率 (倍)	—	15.3	71.6	29.8	60.2
配当性向 (%)	—	9.6	55.0	40.1	64.0
従業員数 (名)	2,130	2,228	434	414	337

(注) 1 売上高又は営業収益には消費税等は含まれておりません。

2 半導体製造装置およびFPD製造装置の販売について、従来、出荷基準により収益を認識しておりましたが、第73期より、据付完了基準により収益を認識する方法に変更したため、第72期の関連する主要な経営指標等については、当該会計方針の変更を遡及修正した数値を記載しております。なお、第71期以前に係る累積的影響額については、第72期の期首の純資産額に反映させております。

3 第73期、第74期、第75期および第76期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第72期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 第72期における自己資本利益率および株価収益率は、当期純損失であるため記載しておりません。

6 当社は、平成26年10月1日付で持株会社へ移行しました。このため、第74期以降の経営指標等は、第73期以前と比較して大きく変動しております。

7 平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第72期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額を算定しております。

8 平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しておりますので、第76期の1株当たり配当額87.00円は株式併合後の配当額となります。

## 2 【沿革】

昭和18年10月11日	資本金130,000円で大日本スクリーン製造株式会社を設立し本社を京都市に置く。
昭和21年3月	カメラ、アーク灯、焼付機等の写真製版機械の生産を開始し、写真製版設備の総合メーカーとしてスタート。
昭和28年6月	堀川工場（現・本社所在地）を買収し、写真製版機械の生産設備を増設。
昭和33年3月	本社内に工場を新築し、ガラススクリーンのほかコンタクトスクリーン、テレビ用・レーダー用等の電子関係部品の生産を開始。
昭和37年5月	株式を大阪証券取引所市場第二部に上場。
昭和38年3月	滋賀県彦根市に彦根機械工場を新築し、工業用カメラの量産体制を確立。
昭和42年7月	米国に現地法人D. S. AMERICA INC. を設立。
昭和42年10月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
昭和45年8月	東京、大阪各証券取引所市場第一部に指定替え上場。
昭和50年2月	化工機工場を発足し、電子工業界向け機械装置の製造を拡充。
昭和53年8月	ドイツに現地法人DAINIPPON SCREEN (DEUTSCHLAND) GmbH (現・SCREEN SPE Germany GmbH 連結子会社) を設立。
昭和56年4月	オランダに現地法人DAINIPPON SCREEN (BENELUX) B.V. (現・SCREEN GP Europe B.V. 連結子会社) を設立。
昭和56年11月	京都府久御山町に久御山工場（現・久御山事業所）を新築し、画像情報処理機器の増産体制を確立。
昭和58年9月	株式会社ディエス技研（現・株式会社テックインテック 連結子会社）を設立。
昭和60年8月	京都市伏見区に洛西工場（現・洛西事業所）を新築し半導体製造装置の増産体制を確立。
平成2年1月	台湾に現地法人DAINIPPON SCREEN (TAIWAN) CO., LTD. (現・SCREEN SPE Taiwan Co., Ltd. 連結子会社) を設立。
平成4年5月	滋賀県野洲町（現・野洲市）に野洲事業所を開設し、半導体製造装置の量産体制の充実を図る。同装置の教育施設を併設。
平成8年4月	米国に持株会社D. S. NORTH AMERICA HOLDINGS, INC. (現・SCREEN North America Holdings, Inc. 連結子会社) および半導体製造装置販売会社DNS ELECTRONICS, LLC (現・SCREEN SPE USA, LLC 連結子会社) を設立。
平成10年10月	滋賀県多賀町に多賀事業所を開設し、次世代半導体製造装置の生産体制を確立。
平成13年3月	彦根事業所にFab. FC-1を新築し300ミリウエハ対応洗浄装置の量産体制を確立。
平成13年4月	福島県に製造子会社株式会社クォーツリード（現・連結子会社）を設立。
平成14年7月	印刷関連機器の国内販売部門を会社分割し、株式会社メディアテクノロジー ジャパン（現・連結子会社）を設立。
平成14年9月	中国に現地法人DAINIPPON SCREEN ELECTRONICS (SHANGHAI) CO., LTD. (現・SCREEN Electronics Shanghai Co., Ltd. 連結子会社) を設立。
平成15年10月	中国に製造子会社DAINIPPON SCREEN MT (HANGZHOU) CO., LTD. (現・SCREEN GP Hangzhou Co., Ltd. 連結子会社) を設立。
平成17年6月	英国のInca Digital Printers LTD. (現・連結子会社) を買収。
平成18年11月	彦根事業所にCS-1を新築し第8世代以降のF P D製造装置の生産体制を確立。 彦根事業所にFab. FC-2を新築し半導体ウエハ洗浄装置の量産体制を確立。
平成20年3月	彦根事業所に半導体製造プロセスの開発拠点となるプロセス技術センターを開設。
平成26年10月	持株会社体制へ移行し、会社名を株式会社SCREENホールディングスに変更。 当社の半導体機器事業を株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ（現・連結子会社）に承継。
平成26年11月	当社の印刷関連機器およびプリント基板関連機器事業を株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ（現・株式会社SCREENグラフィックソリューションズ 連結子会社）に、F P D機器事業およびその他装置関連事業を株式会社SCREENファインテックソリューションズ（現・連結子会社）にそれぞれ承継。
平成29年4月	株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズのプリント基板関連機器事業を株式会社SCREEN PE ソリューションズ（現・連結子会社）に承継し、会社名を株式会社SCREENグラフィックソリューションズへ変更。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社および連結子会社）は、半導体製造装置、F P D製造装置、印刷関連機器およびプリント基板関連機器の製造・販売を主な事業内容とし、さらにそれらに関連する研究・開発およびサービス等の事業活動を展開しております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

当社グループの事業に係る位置付けおよびセグメントとの関連は、次のとおりであります。

#### セミコンダクターソリューション事業（S E）

半導体製造装置の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。

製造、販売および研究・開発は主として子会社の株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズが行っております。一部の装置の開発・製造を子会社の株式会社テックインテック他1社が行うほか、組立の一部を子会社の株式会社FASSEが行っております。子会社の株式会社クォーツリードは半導体製造装置用部品の製造を行っており、子会社の株式会社サークは半導体関連装置等の改造および中古機の再生・販売を行っております。また、子会社のSCREEN SPE USA, LLC他5社が販売支援および保守サービスを行うほか、子会社の株式会社SEBACS他4社が保守サービスを行っております。

#### グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業（G P）

印刷関連機器およびプリント基板関連機器の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。

（印刷関連機器）

製造および研究・開発は主として子会社の株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズが行っております。一部の製品の製造を子会社のSCREEN GP Hangzhou Co., Ltd.が行うほか、子会社のSilicon Light Machines Corp.が印刷関連機器用部品等の開発および製造を行っております。また、子会社のSCREEN GP IJC Ltd.が印刷関連機器の開発を行っております。

国内の販売は、主として子会社の株式会社メディアテクノロジー ジャパンが行っておりますが、一部の製品の販売は株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズが行っております。国内の保守サービスは、子会社の株式会社エムティサービス東日本および株式会社エムティサービス西日本が行っております。海外においては、子会社のSCREEN GP Americas, LLC他7社が販売および保守サービスを行っております。また、子会社のInca Digital Printers LTD.は産業用インクジェットプリンターの開発・製造・販売を行っております。

（プリント基板関連機器）

製造および研究・開発は主として子会社の株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズが行っております。国内の販売は、子会社の株式会社メディアテクノロジー ジャパンが行っており、国内の保守サービスは、子会社の株式会社MEBACSが行っております。海外においては、子会社のSCREEN GP China Co., Ltd.他1社が販売および保守サービスを行うほか、SCREEN HD Korea Co., Ltd.他1社が販売支援および保守サービスを行っております。

#### ファインテックソリューション事業（F T）

F P D製造装置等の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。

製造、販売および研究・開発は主として子会社の株式会社SCREENファインテックソリューションズが行っております。子会社のSCREEN FT Taiwan Co., Ltd.他2社が販売支援および保守サービスを行うほか、子会社の株式会社FEBACSが保守サービスを行っております。

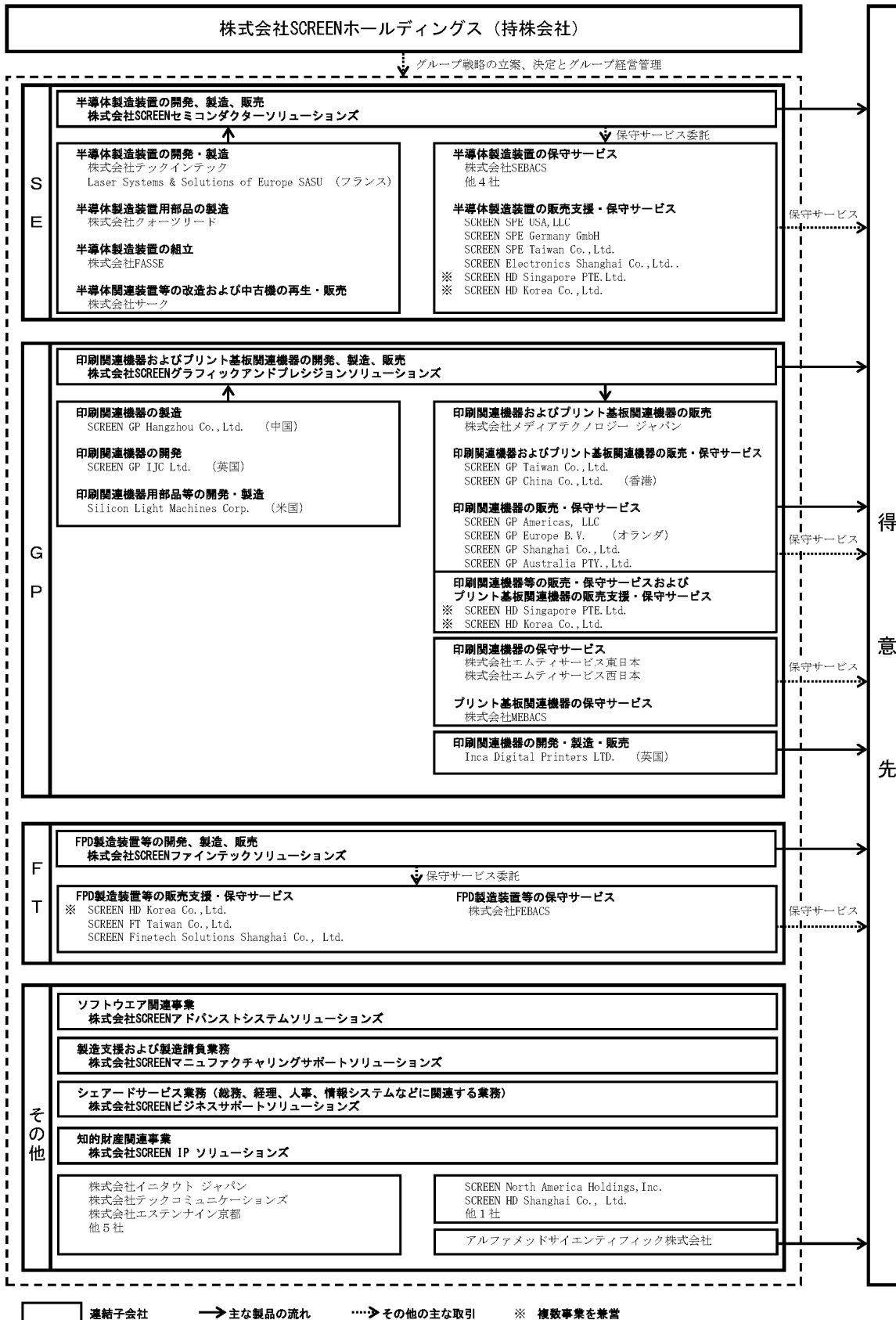
#### その他事業

当社他子会社1社はライフサイエンス分野等の装置の開発、製造、販売を行っております。子会社の株式会社SCREENマニュファクチャリングサポートソリューションズは製造支援および製造請負業務を行っております。子会社の株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズはシェアードサービス業務（総務、経理、人事、情報システムなどに関連する業務）を行っております。子会社の株式会社SCREEN IP ソリューションズは知的財産関連業務を行っております。子会社の株式会社インタウトジャパンは情報・通信システムの構築および管理を行っております。子会社の株式会社テックコミュニケーションズは印刷物の企画・製作を行っております。子会社の株式会社SCREENアドバンストシステムソリューションズ他1社はソフトウェアの開発を行っております。また、その他子会社8社が当社グループへ各種サービスの提供等を行っております。



以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。

平成29年 3月31日現在



(注) 株式会社SCREENアドバンスシステムソリューションズ：当連結会計年度において、当社のソフトウェア事業を承継  
株式会社SCREEN IP ソリューションズ：当連結会計年度において、当社の知的財産業務を承継  
SCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd.：当連結会計年度において、100%出資子会社として設立  
SCREEN HD Shanghai Co., Ltd.：当連結会計年度において、100%出資子会社として設立

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社SCREENセミコンダク ターソリューションズ (注2、4)	京都市上京区	310	半導体製造装置の開発・ 製造・販売・保守サー ビス	100.0	当社から経営指導を受けておりま す。当社から不動産を賃借して おります。当社から債務保証を受け ております。当社への貸付金が有 ります。当社は仕入および経費の 支払代行を行っております。 役員の兼任 4名 (うち当社従業員0名)
株式会社テックインテック	京都市伏見区	480	半導体製造装置の開発・ 製造	100.0 (100.0)	当社から債務保証を受けておりま す。当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員2名)
株式会社SEBACS	京都市右京区	70	半導体製造装置の保守サ ービス	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。
株式会社クォーツリード	福島県郡山市	95	半導体製造装置用部品の 製造	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。
株式会社FASSE	富山県高岡市	90	半導体製造装置の組立	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社サーク	京都市南区	80	半導体関連装置等の改造 および中古機の再生・販 売	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社SCREENグラフィック アンドプレジジョンソリュー ションズ (注2)	京都市上京区	100	印刷関連機器およびプリ ント基板関連機器の開 発・製造・販売	100.0	当社から経営指導を受けておりま す。当社から不動産を賃借して おります。当社から債務保証を受け ております。当社への貸付金が有 ります。当社からの借入金があり ます。当社は仕入および経費の支 払代行を行っております。 役員の兼任 3名 (うち当社従業員0名)
株式会社 メディアテクノロジー ジャパン	東京都千代田区	300	印刷関連機器およびプリ ント基板関連機器の販売	100.0 (100.0)	当社から債務保証を受けておりま す。当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員0名)
株式会社 エムティサービス東日本	東京都豊島区	70	印刷関連機器の保守サー ビス	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社 エムティサービス西日本	大阪市西区	50	印刷関連機器の保守サー ビス	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社MEBACS	東京都豊島区	50	プリント基板関連機器の 保守サービス	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社SCREENファインテックソリューションズ (注5)	京都市上京区	100	F P D製造装置等の開発・製造・販売・保守サービス	100.0	当社から経営指導を受けております。当社から不動産を賃借しております。当社から債務保証を受けております。当社への貸付金があります。当社は仕入および経費の支払代行を行っております。 役員の兼任 3名 (うち当社従業員1名)
株式会社FEBACS	滋賀県彦根市	50	F P D製造装置等の保守サービス	100.0 (100.0)	当社から債務保証を受けております。当社への貸付金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社SCREENマニユファクチャリングサポートソリューションズ	京都市上京区	10	製造支援および製造請負業務	100.0	当社から製造支援業務等を受託しております。当社から不動産を賃借しております。当社から債務保証を受けております。当社への貸付金があります。当社は仕入および経費の支払代行を行っております。 役員の兼任 4名 (うち当社従業員3名)
株式会社 トランザップジャパン	滋賀県野洲市	10	物流業務	100.0 (100.0)	当社の物流業務を行っております。当社より債務保証を受けております。当社への貸付金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員2名)
株式会社スクリーン熊本	熊本県上益城郡 益城町	50	当社グループの製品の組立・調整	100.0 (100.0)	当社への貸付金があります。当社からの借入金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員2名)
株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ	京都市上京区	10	シェアードサービス業務 (総務、経理、人事、情報システムなどに関連する業務)	100.0	当社の総務、経理などに関連する業務を受託しております。当社から債務保証を受けております。当社から不動産を賃借しております。当社への貸付金があります。当社は仕入および経費の支払代行を行っております。 役員の兼任 4名 (うち当社従業員2名)
株式会社 テックコミュニケーションズ	京都市右京区	50	印刷物の企画・製作	100.0 (100.0)	当社のテクニカルドキュメントの企画・製作を行っております。当社への貸付金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社 イニタウトジャパン	京都市上京区	60	IT関連サービス	100.0 (100.0)	当社の情報・通信システムの構築および管理を行っております。当社への貸付金があります。 役員の兼任 3名 (うち当社従業員2名)
株式会社Link Ring Japan	京都市上京区	20	人材派遣 経理関連業務	100.0 (100.0)	当社への人材派遣を行っております。当社の経理などに関連する業務を受託しております。当社への貸付金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員2名)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社ジェラン	滋賀県彦根市	10	ファシリティ業務	100.0 (100.0)	当社のファシリティ業務を行っております。当社より債務保証を受けております。当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社SCREENアドバンストシステムソリューションズ	京都市上京区	10	ソフトウェア関連事業	100.0	当社から経営指導を受けております。当社から不動産を賃借しております。当社への貸付金が有ります。当社から債務保証を受けております。当社は仕入および経費の支払代行を行っております。 役員の兼任 3名 (うち当社従業員1名)
株式会社 エステンナイン京都	京都市右京区	50	半導体製造装置、FPD製造装置、印刷関連機器およびプリント基板関連機器用ソフトウェアの開発	100.0 (100.0)	当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
株式会社SCREEN IP ソリューションズ	京都市上京区	10	知的財産関連業務	100.0	当社から知的財産関連業務を受託しております。当社から不動産を賃借しております。当社への貸付金が有ります。当社から債務保証を受けております。当社は仕入および経費の支払代行を行っております。 役員の兼任 4名 (うち当社従業員2名)
株式会社イー・エム・ディー	滋賀県野洲市	36	プラズマ源およびプラズマシステムの開発・製造・販売	68.8	当社の研究開発の一部を行っております。当社への貸付金が有ります。当社からの借入金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員1名)
アルファメッドサイエンティフィック株式会社	大阪府茨木市	7	ライフサイエンス分野の装置の開発・製造・販売	67.1	当社からの借入金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員1名)
SCREEN SPE USA, LLC	アメリカ カリフォルニア州	18,876千 米ドル	半導体製造装置の販売支援・保守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 2名 (うち当社従業員0名)
SCREEN SPE Germany GmbH	ドイツ イスマニング市	14,367千 ユーロ	半導体製造装置の販売支援・保守サービス	100.0 (100.0)	当社から債務保証を受けております。当社への貸付金が有ります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員1名)
SCREEN SPE Ireland Ltd.	アイルランド キルデア	1ユーロ	半導体製造装置の保守サービス	100.0 (100.0)	—
SCREEN SPE France SARL	フランス パリ	50千 ユーロ	半導体製造装置の保守サービス	100.0 (100.0)	—
SCREEN SPE Italy S.R.L.	イタリア ノヴァラ	50千 ユーロ	半導体製造装置の保守サービス	100.0 (100.0)	—
SCREEN SPE Israel Ltd.	イスラエル ラマトガン	18ユーロ	半導体製造装置の保守サービス	100.0 (100.0)	—

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
Laser Systems & Solutions of Europe SASU	フランス ジュヌヴィリエ	6,000千 ユーロ	半導体製造装置の開発・ 製造	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員0名)
SCREEN Electronics Shanghai Co., Ltd.	中国 上海市	500千 米ドル	半導体製造装置の販売支 援・保守サービス	100.0	役員の兼任 2名 (うち当社従業員2名)
SCREEN SPE Taiwan Co., Ltd.	台湾 新竹市	215,000千 台湾ドル	半導体製造装置の販売支 援・保守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN HD Singapore PTE. Ltd.	シンガポール	15,800千 シンガポ ールドル	半導体製造装置およびプ リント基板関連機器の販 売支援・保守サービス 印刷関連機器の販売・保 守サービス	100.0	当社への貸付金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員0名)
SCREEN GP Americas, LLC	アメリカ イリノイ州	14,798千 米ドル	印刷関連機器の販売・保 守サービス	100.0 (100.0)	当社から債務保証を受けておりま す。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員0名)
Silicon Light Machines Corp.	アメリカ カリフォルニア州	0.1 米ドル	印刷関連機器用部品等の 開発・製造	100.0 (100.0)	当社の研究開発の一部を行って おります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員0名)
Inca Digital Printers LTD.	イギリス ケンブリッジ	604千 英ポンド	印刷関連機器の開発・製 造・販売	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN GP IJC Ltd.	イギリス ケンブリッジ	1,000千 英ポンド	印刷関連機器の開発	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員0名)
SCREEN GP Europe B.V.	オランダ アムステル フェーン	3,540千 ユーロ	印刷関連機器の販売・保 守サービス	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員0名)
SCREEN GP China Co., Ltd.	香港	8,000千 香港ドル	印刷関連機器およびプ リント基板関連機器の販 売・保守サービス	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。 役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN GP Shanghai Co., Ltd.	中国 上海市	200千 米ドル	印刷関連機器の販売・保 守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN GP Hangzhou Co., Ltd.	中国 杭州市	280	印刷関連機器の製造	100.0	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN HD Korea Co., Ltd.	大韓民国 ソウル特別市	1,267百万 ウォン	半導体製造装置、FPD 製造装置等およびプ リント基板関連機器の販 売支援・保守サービス 印刷関連機器等の販売・ 保守サービス	100.0	役員の兼任 2名 (うち当社従業員1名)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
SCREEN GP Taiwan Co., Ltd.	台湾 台北市	30,000千 台湾ドル	印刷関連機器およびプリン ト基板関連機器の販 売・保守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN GP Australia PTY., Ltd.	オーストラリア シドニー	3,000千 豪ドル	印刷関連機器の販売・保 守サービス	100.0 (100.0)	当社からの借入金があります。
SCREEN FT Taiwan Co., Ltd.	台湾 竹北市	109,743千 台湾ドル	F P D製造装置等の販売 支援・保守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd.	中国 上海市	800千 米ドル	F P D製造装置等の販売 支援・保守サービス	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名 (うち当社従業員1名)
SCREEN North America Holdings, Inc.	アメリカ デラウェア州	650 米ドル	米国関係会社の持株会社	100.0	当社への貸付金があります。 役員の兼任 2名 (うち当社従業員0名)
SCREEN HD Shanghai Co., Ltd.	中国 上海市	20千 米ドル	中国関係会社の管理統括	100.0	役員の兼任 4名 (うち当社従業員1名)
その他2社	—	—	—	—	—

(注) 1 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

2 特定子会社に該当します。

3 上記子会社のうちには、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	189,263百万円
	(2) 経常利益	22,464百万円
	(3) 当期純利益	20,208百万円
	(4) 純資産額	51,786百万円
	(5) 総資産額	131,665百万円

5 株式会社SCREENファインテックソリューションズについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	34,235百万円
	(2) 経常利益	3,014百万円
	(3) 当期純利益	1,983百万円
	(4) 純資産額	7,141百万円
	(5) 総資産額	26,206百万円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
セミコンダクターソリューション事業	2,714
グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業	1,453
ファインテックソリューション事業	377
その他事業	626
全社（共通）	252
合計	5,422

(注) 従業員数は就業人員（当社及び連結子会社から外部への出向者を除き、外部から当社及び連結子会社への出向者を含む）であります。

### (2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
337	44.5	19.3	8,952

セグメントの名称	従業員数（名）
その他事業	88
全社（共通）	249
合計	337

(注) 1 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む）であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は主としてSCREEN労働組合であります。なお、労使関係は良好であり、特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、英国のEU離脱選択や中国経済の下振れ懸念などから一部にやや弱さが見られたものの、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。米国では雇用や個人消費の改善に加え、設備投資が持ち直すなど、景気回復が続きました。欧州でも緩やかな景気回復が続きましたが、雇用の改善に頭打ちが見られるなどやや弱含みで推移しました。また、中国では安定成長を目指す政策効果もあり、景気の減速は緩やかなものとなりました。わが国経済におきましては、企業収益や雇用の改善に加え、設備投資や個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、半導体業界では、高性能スマートフォンやIoT関連のビッグデータ処理用データセンター向けの旺盛な需要を背景に、ファウンドリーにおいて微細化投資が活発化しました。また、サーバーやストレージ向けなど、メモリーメーカーにおいても高水準の設備投資が続きました。FPD業界では、中国での大型液晶パネル向け投資に続き、国内や中国・台湾において、中小型液晶パネル向けに活発な設備投資が行われました。

このような状況の中、当連結会計年度における当社グループの業績につきましては、売上高は3,002億3千3百万円と前期に比べ405億5千8百万円（15.6%）増加しました。利益面につきましては、研究費の増加や海外拠点の強化に伴う人件費の増加があったものの、売上の増加などにより、営業利益は、前期に比べ101億7千4百万円（43.2%）増加し、337億3千1百万円（営業利益率11.2%）となりました。また、営業外費用において固定資産除却損、特別利益において投資有価証券売却益、特別損失において固定資産に係る減損損失などを計上しました。以上の結果、経常利益は、前期に比べ88億4千1百万円（38.1%）増加の320億1千9百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べ53億5千3百万円（28.5%）増加の241億6千8百万円となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

#### （セミコンダクターソリューション事業：SE）

セミコンダクターソリューション事業では、ファウンドリー向けの売上が、前期に比べ、大幅に増加するとともに、メモリーメーカー向けの売上也堅調に推移しました。製品別では、顧客の微細化投資を受け枚葉式洗浄装置の売上が大幅に増加するとともに、バッチ式洗浄装置の売上也堅調に推移しました。地域別では、国内や北米向けは減少しましたが、アジアにおいて台湾や中国向けを中心に売上が大幅に増加しました。これらの結果、当セグメントの売上高は2,060億9千7百万円（前期比24.3%増）となりました。利益面では、研究費や海外拠点の強化に伴う人件費の増加があったものの、売上の増加により、営業利益は293億1千5百万円（前期比56.6%増）となりました。

#### （グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業：GP）

グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業では、印刷関連機器については、POD装置の市場浸透を進めたものの、期中の円高影響を受け、海外の売上が減少したことに加え、国内の売上也低調であったことから、前期に比べ売上が減少しました。またプリント基板関連機器の売上は前期並みとなりました。これらの結果、当セグメントの売上高は547億4千8百万円（前期比10.7%減）となりました。利益面につきましては、変動費の低減を進めたものの売上減少の影響が大きく、営業利益は22億2千4百万円（前期比29.8%減）となりました。

#### （ファインテックソリューション事業：FT）

ファインテックソリューション事業では、前期に比べ、中国向けの大型パネル用製造装置の売上は減少しましたが、国内や中国・台湾向けの中小型パネル用製造装置の売上が増加しました。これらの結果、当セグメントの売上高は381億4百万円（前期比20.6%増）、営業利益は43億9千1百万円（前期比59.8%増）となりました。

#### （その他事業）

その他事業の外部顧客への売上高は14億5千2百万円となりました。



(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ147億6千6百万円増加し、449億2千2百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回ったことから、490億2千4百万円の収入（前期は147億2千万円の収入）と大幅に改善いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより58億6千万円の支出（前期は25億5千7百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還や長期借入金の返済、配当金の支払い、自己株式の取得などにより、274億7千9百万円の支出（前期は28億4千5百万円の支出）となりました。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高（百万円）	前年同期比（％）
セミコンダクターソリューション事業	163,746	+15.1
グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業	29,176	△4.5
ファインテックソリューション事業	32,680	+23.9
その他事業	208	△26.2
合計	225,811	+13.2

- (注) 1 金額は販売予定価格によっております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高（百万円）	前年同期比（％）	受注残高（百万円）	前年同期比（％）
セミコンダクターソリューション事業	225,408	+39.5	70,411	+37.8
グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業	55,997	△5.1	6,431	+24.1
ファインテックソリューション事業	39,815	△8.7	41,714	+4.3
合計	321,221	+21.6	118,558	+23.1

- (注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高（百万円）	前年同期比（％）
セミコンダクターソリューション事業	206,097	+24.3
グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業	54,748	△10.7
ファインテックソリューション事業	38,104	+20.6
その他事業・調整額	1,283	+27.8
合計	300,233	+15.6

- (注) 1 各セグメントの金額には、セグメント間取引を含んでおります。  
2 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
	金額（百万円）	割合（％）	金額（百万円）	割合（％）
Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.	35,337	13.6	71,859	23.9

- 3 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題

当社グループは、平成27年3月期～平成29年3月期の3カ年におきまして中期3カ年経営計画「Challenge2016」に取り組んでまいりました。この間、セミコンダクターソリューション事業では、スマートフォンの需要拡大を背景にした継続した最先端投資やIoTに代表される新しい領域の拡大による追い風と、絶え間ない収益構造改革により、売上・収益とも拡大することができました。グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業では、一定の売上規模の拡大は見られたものの、デジタル印刷機市場の競争激化などにより、収益性が低迷する結果となりました。また、ファインテックソリューション事業では、中国市場での設備投資意欲が旺盛な中、時宜を得た活動と新規分野への取り組みにより、当初予想を上回る好業績を残すことができました。

このような背景から、計画で目標に掲げた、①「収益構造改革を完遂し、高収益体質へ」として、最終年度において営業利益率10%以上、②「新規領域での事業化」、③「財務体質の強化」として、最終年度末において自己資本比率50%以上、に対して新規領域での事業化に関しては遅れはあるものの、一定の成果を出すことができました。

われわれを取り巻く事業環境は、変化が激しく、スピードとイノベーションが求められるものの、常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識しております。そのような環境の下、今年度から3年間で新たに取り組む、中期3カ年経営計画「Challenge 2019」では、前中期経営計画で確立した収益構造と財務基盤を維持するとともに、「グループの成長と質の向上」を目指し、持続的な利益創出や株主還元などを推進してまいります。また、次の成長に向けた積極的なアクションとして、成長に向けたリソースの配分およびオープンイノベーション、M&Aも選択肢として取り組んでまいります。

中期3カ年経営計画「Challenge 2019」（平成30年3月期～平成32年3月期）

#### 1. 基本コンセプト

「グループの成長と質の向上」

#### 2. 目標

##### ①売上規模の拡大

単年度売上高3,000億円レベル

##### ②収益性の維持・向上

最終年度の営業利益率13%以上

##### ③資本効率の維持・向上

ROE15%レベル

※上記3項目の数値目標はオーガニック・グロースを前提としております。

#### 3. 主たる取り組み

##### ①既存事業における損益分岐点売上高比率の改善

売上の変動に応じた損益分岐点売上高のコントロール

##### ②装置ビジネスをベースとした周辺領域における収益基盤の確立

改造を含むポストセールス(印刷分野においては消耗品ビジネスも含む)のさらなる強化

##### ③一定の財務規律を維持しながらも、積極的に成長投資を実行

効果的なM&Aの検討・実施。オープンイノベーション戦略としての研究機関、他社などとの協業、業務提携、ベンチャー企業への出資・支援などの検討・実施

##### ④ESGに重点をおいたCSR経営の推進

E：「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会への貢献

S：ディーセント・ワーク(働き甲斐のある人間らしい仕事)の実現と、社会的価値の創造

G：守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の開示

## ⑤株主還元の充実

連結総還元性向 25%以上を目指す

上記における将来数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

\*ESGとは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取ったもの

## (2) セグメント別の今後の取り組みについて

当社グループは、中期3カ年経営計画「Challenge 2019」の下、セグメント別に以下の取り組みを進めてまいります。

セミコンダクターソリューション事業では、前期はパソコン、スマートフォンのみならず自動車などへとますますその用途が拡大する半導体市場の成長を背景に、リードタイムの短縮など継続的に取り組む施策も計画通りに進め、過去最高の売上高と営業利益を達成することができました。また、主力製品の枚葉式洗浄装置において、高生産性と微細化対応技術を備えた新製品「SU-3300」のリリースをはじめ、熱処理装置、後工程の直接描画装置などの分野で新製品を投入し、事業領域および製品ポートフォリオの拡充を図りました。当期は、強化されたビジネス基盤を活用することで継続的な売上拡大・シェア拡大を目指してまいります。新中期3カ年経営計画期間となる3カ年においては、半導体業界は年率5%以上の伸びが予想されております。成長著しいNANDフラッシュメモリー、微細化が継続するロジック、用途数量共に拡大するセンサーなど、幅広いデバイス領域でのポジション強化を図り、更には投資拡大が期待される中国市場も取り込むべく、競争力のある製品群の準備を進めてまいります。また、重点施策の一つとして組織強化を挙げております。お客様の高い要望を短時間で実現するためには、全社員で課題を共有し取り組むことが必要となります。そのため、事業全体を見渡せるビジネス本部を立ち上げ、必要に応じて、臨機応変に人材を投入できる体制を作ることで、お客様の要望に応じてまいります。

グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業では、前期、印刷関連機器はPOD装置の市場浸透を進めたものの、円高影響を受け海外の売上が減少し、国内の売上も低調であったことから、3期続いた増収増益から減収減益という厳しい結果となりました。印刷関連機器では、CTPの市場が縮小する一方、POD市場は商業印刷分野に拡大し、年率10%以上伸びていくという予測があります。そこで、CTPに関してはOEM先を増やし売上を維持していくとともに、これから訪れる商業印刷分野におけるPODへの移行を機に、欧米などで販売力を強化してまいります。前期は欧州においても小森コーポレーション社との戦略的業務契約を締結し、POD装置の自社ブランド販売網を拡大いたしました。当期も引き続き、自社ブランド製品の売上アップを目指してまいります。併せて、自社ブランドのPOD装置には、インクなどの消耗品や部品販売、サポートサービスなどのポストセールス(循環型ビジネス)が期待できるため、販売台数を増やすとともに、循環型ビジネスの売上も伸ばしていく計画であります。高収益企業への転換という目標は、当期も継続課題となります。そのため、前期より取り組んでおります収益構造改革を目指した事業会社社長直轄のプロジェクトチームで、在庫抑制や設計変更などによるコストダウンを推し進め、高収益体質への変革を目指してまいります。

なお、プリント基板関連機器事業については、電子デバイス市場が大きく変化していく中、より洗練された先進のソリューションを提供し、顧客満足度のさらなる向上を図るため、平成29年4月1日付で株式会社SCREEN PEソリューションズとして分社いたしました。当期は、スマートフォンの高機能機への買い替え需要や自動車、通信、データストレージ等でのIoT需要の増加により、プリント基板市場が拡大する中、直接描画装置や検査装置の新製品を投入し、売上拡大を目指してまいります。

ファインテックソリューション事業では、前期は中国向けの大型パネル用製造装置の売上は減少しましたが、国内や中国・台湾向けの中小型パネル用製造装置の売上が大幅に増加いたしました。また、リチウムイオンバッテリー関連などの新規事業で売上高20億円を突破することができました。ディスプレイ分野では、液晶テレビの大型化・高精細化、中小型を中心とした有機ELディスプレイ（OLED）化という大きな流れがあります。当社では、スマートフォンやウェアラブルデバイスなどを中心に、用途の広がりを見せるOLED化に一早く対応し、前期には、フレキシブルディスプレイ用基板となる素材ポリイミドの塗布装置を発売いたしました。今後は、液晶ディスプレイ向けのみならず、OLEDをはじめとするフレキシブルディスプレイや車載用など、新たなアプリケーション向けに競争力の高い新製品をリリースし、シェア拡大を目指してまいります。さらに、新規事業としては成膜分野に注力し、ウェット成膜ではリチウムイオンバッテリーや燃料電池関連製造装置などへの応用展開を進め、ドライ成膜でも多様なアプリケーションへの展開を進めるなど、売上拡大を目指してまいります。また、収益構造の改善という点では、中国での製造拠点づくりなど、サプライチェーン全般での見直しを進め、収益力を高めていきたいと考えております。

新規事業では、ライフサイエンス市場での創薬、再生医療、iPS細胞の研究開発投資、自動車業界、検査・計測市場での鍛造部品等の目視検査の自動化ニーズが増加する中、当社の製品を評価していただくため、評価機としてお客様への装置の納入を進めてまいりました。当期は、成長市場をターゲットにさらなる製品ラインナップの拡充や営業力の強化を行い、装置評価フェーズから、売上増加フェーズへの移行を目指してまいります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

##### (1) 半導体・F P D市場の動向について

半導体・F P D市場は、急速な技術革新により大幅に成長する反面、需給バランスの悪化から市況が低迷するという好不況の波にさらされてきました。このような市場環境の中、当社グループは市況の下降局面においても確実に利益を生み出せるよう、損益分岐点売上高比率の改善に取り組んでいますが、予想を上回って市況が悪化した場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (2) 特定顧客への取引集中について

当社グループは国内外の主要な半導体メーカーに製造装置を納入しておりますが、この業界では生産能力増強ならびに微細化対応に巨額の投資を必要とすることから一部の大手メーカーへの集約が進んできており、当社グループの売上も特定の顧客に集中する傾向にあります。したがって、これら特定顧客の設備投資動向や特定顧客からの受注動向によっては、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (3) 生産拠点の集中について

当社グループの国内生産拠点は京滋地区に集中しており、この地区において大規模な地震等が発生した場合、大きな被害を受ける可能性があります。当社グループでは損失を最小限にとどめ、事業の継続または早期再開を図るため、事業継続マネジメント（BCM）を推進しておりますが、災害等により生産拠点の操業が停止するなどの不測の事態が生じた場合、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (4) 製品の品質について

当社グループでは、品質マネジメントシステムの規格（ISO9001）に基づく品質管理体制を構築し、製品・サービスの品質向上に取り組んでいますが、万一、大規模なリコールや製造物賠償責任につながるような製品の欠陥が発生し顧客に損失をもたらした場合、多額の追加費用の発生や信頼低下による売上減少を招く恐れがあります。その場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (5) 新製品の開発について

当社グループは、各事業戦略に沿った開発テーマの絞り込みや保有技術のグループ内での共有化、外部の技術資源の効率的活用などにより、開発力の強化・活性化に取り組んでおり、最新の技術を取り入れた製品をタイムリーに市場投入しシェアの拡大を図ることで収益体制の強化を目指しております。しかしながら、開発期間が長期化することにより新製品のリリースに遅れが生じた場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (6) 知的財産権について

当社グループは、常に最新技術を取り入れた製品を長年にわたって市場に供給してきており、各事業部門において種々の独自技術を創出してきてきました。また、その技術を知的財産関連法および他社との契約上の規定の下で知的財産権として確立し保護する取り組みを行ってきました。しかし、最先端技術の分野においては知的財産をめぐる権利関係はますます複雑化してきており、将来知財紛争に巻き込まれるリスクがあります。その場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (7) 情報管理について

当社グループは、事業遂行に関連して、多数の個人情報や顧客情報、技術情報を有しております。当社グループでは、「ネットワークシステム管理規定」を定め、社内情報システムのセキュリティ強化を図るとともに、グループの全役員・従業員が心がけるべき行動規範を定めた「SCREENグループCSR憲章」を制定し情報管理体制を強化しております。しかしながら、予期せぬ事態によりこれらの情報が流出した場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

##### (8) 企業買収、資本提携等について

事業戦略の一環として、企業買収、資本提携等を実施することがあります。具体的な実施にあたっては様々な角度から十分な検討を行ってまいります。買収および提携後の事業計画が当初計画通りに進捗しない場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(9) 重要な訴訟等に係るリスクについて

当社グループの事業活動に関連し、様々な事由により訴訟等の対象となる可能性があり、重要な訴訟等が提起された場合、その結果によっては、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(10) 金利変動について

当連結会計年度末における有利子負債残高は全て金利を固定しており、金利変動リスクに晒されておりませんが、新たな調達資金については、金利変動の影響を受け、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(11) 資金調達について

当社の借入金に係る契約のうち一部の契約には、各年度の末日の連結純資産および各年度の連結経常損益に関する財務制限条項が付されています。これに抵触し、借入先金融機関の請求があった場合、当該借入金について期限の利益を喪失する可能性があります。この場合、当社の社債およびその他の借入金についても連動して期限の利益を喪失する可能性があります。当社が借入金等について期限の利益を喪失し、一括返済の義務を負った場合には、当社グループの財政状態に悪影響をもたらす可能性があります。なお、現在、財務制限条項が付されている契約に基づく借入金の残高はありません。

(12) 為替レートの変動について

当社グループは海外売上高比率が高いため、輸出売上については為替リスクを回避するために積極的に円建て取引を行っておりますが、外貨建てによる取引も存在しております。当社グループは為替予約などによりリスクヘッジを行うことで、為替変動による業績への影響を小さくするよう努力しておりますが、急激な為替変動が起こった場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(13) 退職給付債務について

当社グループの退職給付費用および債務は、割引率など数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、前提条件が変更された場合、または年金資産の運用利回りが低下した場合、将来期間において認識される費用および計上される債務に影響を及ぼします。

当社グループでは、従来の適格退職年金制度からキャッシュバランスプランや確定拠出型制度に変更するなど、退職給付債務への影響を小さくするよう努めておりますが、予想を上回る運用利回りの悪化などが起こった場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(14) 減損会計について

固定資産の減損会計により、今後の地価の動向や事業の将来の収益見通しによっては、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(15) 繰延税金資産の回収可能性について

当社グループは、将来減算一時差異および税務上の繰越欠損金に対して、将来の課税所得を合理的に見積もった上で回収可能性を判断し、繰延税金資産を計上しております。また、将来の課税所得については、経営環境の変化などを踏まえ適宜見直しを行っており、結果として繰延税金資産の全額または一部に回収可能性がないと判断し、繰延税金資産の取崩しが必要となった場合、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

(16) その他のリスクについて

上記のリスクの他、当社グループが事業を遂行していく上において、他社と同様に、世界および日本の政治情勢や経済環境、地震、洪水等の自然災害、戦争、テロ、疫病の流行、株式市場、商品市況、政府等による規制、仕入先の供給体制、雇用情勢などによる影響を受けます。それらの動向によっては、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響をもたらす可能性があります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社グループでは、株式会社SCREENホールディングスとグループ会社が密接に連携し、「フォトリソグラフィ」をコア技術として洗浄技術や塗布技術、画像情報処理技術、光学システム技術、検査・計測技術など、多様な技術を融合・展開させることで、基礎研究から商品開発に至るまで積極的な研究開発活動に取り組んでおります。

当連結会計年度は、セミコンダクターソリューション事業を中心とした既存事業の拡大・強化に向けた開発投資を行うとともに、ライフサイエンス、検査計測、プリントエレクトロニクスの各分野において新規事業の事業化を目指した研究開発活動を積極的に推進し、177億9千4百万円の研究開発費を投入いたしました。

なお、当社グループの主な研究開発成果は次のとおりであります。

セミコンダクターソリューション事業では、半導体回路の超微細化技術の開発において、前期に引き続き海外研究機関と洗浄、ウェットエッチング、リソグラフィ（コーターデベロッパ）、レーザーアニール分野に関して、最先端の半導体プロセスの共同開発を行いました。また、安定性／生産性／経済性の向上や次世代プロセス対応などの顧客要求に応えるべく、微細なパターン倒壊抑制、微小パーティクル除去などの課題をクリアする性能と、さらなるトータルコスト低減を実現した枚葉洗浄装置「SU-3300」を開発いたしました。そのほか、半導体チップの積層化、Fan-Out化に対応し半導体後工程のFOPLP(Fan-Out Panel Level Package)向けに世界最高水準の解像度を実現し最適露光を可能にした大型パネル用直接描画露光装置「DW-3000 for PLP」を開発いたしました。なお、当セグメントの研究開発費の金額は90億6千8百万円であります。

グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業では、印刷関連機器において、欧州企業と段ボール業界向けの高速インライン型デジタル印刷ソリューションの共同開発に取り組みました。また、プリント基板関連機器においては、直接描画装置のラインナップ拡充を図るべく高生産性・高精細化製品の開発に取り組みました。なお、当セグメントの研究開発費の金額は38億1百万円であります。

ファインテックソリューション事業では、エネルギー分野において、燃料電池の電解質膜に電極触媒を直接塗工・乾燥する技術を開発いたしました。この技術を搭載し、生産性の大幅な向上と生産コストの低減が実現可能な、触媒層付き膜をロールtoロール方式で連続生産できる燃料電池製造装置「RTシリーズ」を開発いたしました。なお、当セグメントの研究開発費の金額は12億1千4百万円であります。

上記セグメント以外では、株式会社SCREENホールディングスにおいて基礎研究や新規事業領域の研究開発に取り組みました。その金額は37億9百万円であります。

ライフサイエンス分野では、手術用臓器模型を効率良く製造できるシステムの開発に取り組みました。また、iPS/ES細胞由来の神経細胞や心筋細胞を使用した創薬スクリーニング・薬効評価に貢献するハイスループット細胞外電位記録システム「MED64 Presto」を開発いたしました。

検査計測分野では、変速機をはじめとする自動車の基幹部に使われ、安全性が重視される車載用冷間鍛造部品において数十マイクロメートル単位の微細な傷を自動検出することで、品質と生産性の向上に貢献できる外観検査技術を開発いたしました。

プリントエレクトロニクス分野では、前期に引き続きさまざまな線幅が混在する複雑な電子回路において容易に一括形成を可能とする製版技術の開発に取り組みました。

なお、当社はソフトウェア開発関連事業のさらなる拡大に向けて、平成28年10月1日に当社の当該事業を分社し、株式会社SCREENアドバンスシステムソリューションズとして活動を開始いたしました。

(注) 基礎研究費用は、「セグメント情報」のセグメント利益又は損失の算出にあたり、原則として各報告セグメントに配分しております。



## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成において採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況」の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

また、連結財務諸表の作成にあたって、会計上の見積りを必要とする繰延税金資産、貸倒引当金、製品保証引当金、たな卸資産の評価、固定資産の減損、退職給付に係る会計処理などについては、過去の実績や当該事象の状況を勘案して、合理的と考えられる方法に基づき見積りおよび判断をしております。ただし、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### ① 売上高

当連結会計年度における当社グループの売上高は3,002億3千3百万円と前連結会計年度に比べ405億5千8百万円(15.6%)増加しました。

セミコンダクターソリューション事業の売上高は、2,060億9千7百万円(前期比24.3%増)となりました。グラフィックエンドプレジジョンソリューション事業の売上高は、547億4千8百万円(前期比10.7%減)となりました。ファインテックソリューション事業の売上高は、381億4百万円(前期比20.6%増)となりました。その他事業の外部顧客への売上高は14億5千2百万円となりました。

#### ② 売上原価、販売費及び一般管理費

売上高原価率は、研究費が増加した一方で売上が増加したことにより、前連結会計年度と同じく68.8%となりました。販売費及び一般管理費は、研究費の増加や海外拠点の強化に伴う人件費の増加などにより、前連結会計年度に比べ23億7千4百万円(4.1%)増加し、598億1千5百万円となりました。売上高販管費比率は販売費及び一般管理費は増加したものの、売上の増加により、前連結会計年度の22.1%から19.9%となりました。

以上の結果、営業利益は101億7千4百万円増加の337億3千1百万円となりました。

#### ③ 営業外損益

営業外費用において、有利子負債の削減に伴い支払利息が減少したものの、固定資産除却損を計上したことに加え、営業外収益において、助成金収入が減少したことなどにより、営業外損益は前連結会計年度に比べ13億3千2百万円悪化しました。

以上の結果、経常利益は88億4千1百万円増加の320億1千9百万円となりました。

#### ④ 特別損益

保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益を特別利益として計上したものの、固定資産に係る減損損失を計上したことから、特別損益は前連結会計年度に比べ17億2千8百万円悪化しました。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は71億1千2百万円増加の310億5千5百万円となりました。

法人税等合計は、法人税、住民税及び事業税を計上したことなどから、68億6千8百万円となりました。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、53億5千3百万円増加の241億6千8百万円となりました。

また、1株当たり当期純利益金額は、前連結会計年度に比べ、115円21銭増加し、511円96銭となりました。なお、平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については「第2 事業の状況」「4 事業等のリスク」に記載のとおりです。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

・財政状態

資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産合計は、受取手形及び売掛金が減少した一方で、現金及び預金やたな卸資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ305億6千6百万円（11.3%）増加し、3,006億5千9百万円となりました。

負債合計は、有利子負債が減少した一方で、仕入債務や前受金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ79億3千8百万円（5.3%）増加し、1,577億4千3百万円となりました。有利子負債につきましては、社債の償還などにより、前連結会計年度末に比べ220億4千9百万円（55.6%）減少し、175億8千6百万円となりました。また、有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債は、大幅なプラスとなった営業キャッシュ・フローなどにより、前連結会計年度末に比べ385億1千万円減少し、312億4千5百万円のマイナス（ネットキャッシュポジション）となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加やその他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ226億2千7百万円（18.8%）増加し、1,429億1千5百万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度末の自己資本比率は、47.5%となりました。

・キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの分析は「第2 事業の状況」の「1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において82億5千6百万円の設備投資（無形固定資産を含む）を実施しました。

セミコンダクターソリューション事業において、半導体製造装置の研究開発設備および生産設備を中心に50億6千9百万円の設備投資を実施しました。

グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業において、印刷関連機器の研究開発設備および生産設備を中心に11億1千万円の設備投資を実施しました。

ファインテックソリューション事業において、FPD製造装置の研究開発設備などに2億9千6百万円の設備投資を実施しました。

その他事業において、研究開発設備などに6億8千7百万円の設備投資を実施しました。

全社（共通）において、基幹業務システムなどに10億9千1百万円の設備投資を実施しました。

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース資 産(有形 および無 形)	その他	合計	
本社事業所 (京都市上京区) (注) 3	全社 (共通)	事務所設備 賃貸設備	2,192	50	2,122 (18)	6	971	5,344	94
彦根事業所 (滋賀県彦根市) (注) 2 (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	4,378	248	1,707 (141) [30]	87	111	6,533	8
野洲事業所 (滋賀県野洲市) (注) 2 (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	739	11	— [27]	1,575	30	2,357	—
多賀事業所 (滋賀県犬上郡多賀町) (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	1,938	0	892 (29)	—	10	2,842	—
久御山事業所 (京都府久世郡久御山町) (注) 2 (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	73	5	489 (9) [2]	—	104	672	—
洛西事業所 (京都市伏見区) (注) 3	その他 全社 (共通)	研究開発設備 賃貸設備	1,141	572	1,242 (9)	3	587	3,547	213
門前仲町事業所 (東京都江東区) (注) 2 (注) 3	全社 (共通)	事務所設備 賃貸設備	162	0	—	—	10	173	13
熊本事業所 (熊本県上益城郡益城町) (注) 3	全社 (共通)	生産用地 賃貸設備	508	—	1,389 (119)	—	7	1,905	—
クォーツリード (福島県郡山市) (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	313	9	525 (24)	—	0	849	—
京都市南事業所 (京都市南区) (注) 3	全社 (共通)	賃貸設備	169	0	493 (3)	—	5	667	—

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定、ソフトウェアなどの合計であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地または建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積は [ ] で外書きしております。

3 建物の一部を連結子会社に賃貸しております。

4 現在休止中の主要な設備はありません。

## (2) 国内子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース 資産 (有形およ び無形)	その他	合計	
株式会社SCREENセミ コンダクターソリュ ーションズ (注) 2	彦根事業所 (滋賀県彦 根市) 他	S E	生産設備 研究開発 設備	255	9,017	—	711	4,094	14,079	1,053
株式会社SCREENファ インテックソリュ ーションズ (注) 2	彦根事業所 (滋賀県彦 根市) 他	F T	生産設備 研究開発 設備	4	620	—	—	204	830	201
株式会社 テックインテック	本社事業所 (京都市 伏見区) 他	S E	研究開発 設備 生産設備	357	20	371 (2)	—	80	830	125
株式会社 イニタウトジャパン (注) 2	本社事業所 (京都市 上京区) 他	その他	ネットワ ーク関連 設備他	4	—	—	—	137	141	36
株式会社FASSE (注) 2	本社事業所 (富山県 高岡市) 他	S E	生産設備	78	11	— [3]	6	34	130	67
株式会社SCREEN グラフィックアンド プレジジョンソリュ ーションズ (注) 4	久御山事業 所(京都府 久御山郡久 御山町) 他	G P	生産設備 研究開発 設備	0	0	—	0	0	0	426

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定、ソフトウェアなどの合計であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地または建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積は [ ] で外書きしております。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

4 当連結会計年度において資産グループから得られる見積将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減損処理を実施しております。

## (3) 在外子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース 資産 (有形およ び無形)	その他	合計	
SCREEN SPE Taiwan CO., Ltd. (注) 2	本社事業所 (台湾新竹 市) 他	S E	事務所設 備	208	12	300 (1)	—	169	691	335
SCREEN HD Singapore PTE. Ltd. (注) 2	本社事業所 (シンガ ポール)	S E G P	テクニカ ルセンタ ー兼事務 所設備	640	6	— [2]	—	2	648	105
SCREEN GP Europe B.V. (注) 2	本社事業所 (オランダ アムステル フェーン 市) 他	G P	事務所設 備	207	9	231 (13)	—	53	503	49
SCREEN GP Hangzhou CO., Ltd. (注) 2	本社事業所 (中国 杭州市)	G P	生産設備	359	68	— [23]	—	63	492	151
SCREEN GP IJC Ltd. (注) 2	本社事業所 (イギリス ケンブリッ ジ市)	G P	研究設備	—	316	—	—	145	461	5

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース 資産 (有形およ び無形)	その他	合計	
Silicon Light Machines Corp. (注) 2	本社事業所 (アメリカ カリフォル ニア州) 他	G P	研究設備 生産設備	—	267	—	—	22	290	16
SCREEN GP Americas, LLC (注) 2	本社事業所 (アメリカ イリノイ 州) 他	G P	事務所設 備	139	5	—	—	24	168	72
Inca Digital Printers LTD. (注) 2	本社事業所 (イギリス ケンブリッ ジ市)	G P	生産設備	77	74	— [7]	—	5	156	191
SCREEN HD Korea CO., Ltd. (注) 2	本社事業所 (ソウル 市) 他	S E G P F T	トレーニ ングセン ター兼事 務所設備	6	127	—	—	9	143	159
SCREEN SPE USA, LLC (注) 2	本社事業所 (アメリカ カリフォル ニア州) 他	S E	事務所設 備	17	101	— [6]	—	14	133	271
Laser Systems & Solutions of Europe SASU (注) 2	本社事業所 (フランス ジュヌヴィ リエ)	S E	研究設備 生産設備	47	29	— [2]	—	31	108	51

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定、ソフトウェアなどの合計であります。  
 なお、金額には消費税等は含まれておりません。  
 2 土地または建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積は [ ] で外書きしております。  
 3 現在休止中の主要な設備はありません。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループは、多種多様な事業を国内外で行っており、設備の新設・更新等の計画の内容も多岐にわたっているため、セグメントごとの数値を開示する方法によっております。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画の総額は105億円（無形固定資産を含む）であり、セグメントごとの内訳は次のとおりであります。

セグメントの名称	平成29年3月末計画 金額 (百万円)	設備等の主な内容・目的
S E	6,055	半導体製造装置の研究開発設備および生産設備
G P	1,474	—
G A	1,344	印刷関連機器の研究開発設備および生産設備
P E	130	プリント基板関連機器の研究開発設備および生産設備
F T	634	F P D 製造装置等の研究開発設備および生産設備
その他	818	研究開発設備および情報システム
全社 (共通)	1,518	研究開発設備および各事業所設備
合計	10,500	

- (注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
 2 設備投資計画の所要資金は自己資金により充当する予定であります。  
 3 経常的な設備更新のための除却を除き、重要な設備の除却の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

(注) 平成28年6月28日開催の第75回定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日（平成28年10月1日）をもって、発行可能株式総数は720,000,000株減少し、180,000,000株となっております。

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	50,794,866	50,794,866	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	50,794,866	50,794,866	—	—

(注) 平成28年6月28日開催の第75回定時株主総会の決議により、平成28年10月1日付で株式併合（5株を1株に併合）および単元株式数の変更（1,000株から100株に変更）を行っております。これにより発行済株式総数は、203,179,467株減少し、50,794,866株となっております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成28年10月1日 (注)	△203,179	50,794	—	54,044	—	—

(注) 平成28年10月1日付で普通株式5株を1株に併合いたしました。これにより発行済株式総数は、203,179,467株減少し、50,794,866株となっております。

## (6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	61	37	273	338	11	7,250	7,970	—
所有株式数（単元）	—	233,879	14,745	37,028	125,929	260	95,248	507,089	85,966
所有株式数の割合（%）	—	46.12	2.91	7.30	24.84	0.05	18.78	100.00	—

(注) 1 自己株式3,831,798株は「個人その他」に38,317単元および「単元未満株式の状況」に98株を含めて記載しております。

2 「その他の法人」の中には証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2丁目11番3号	6,207	12.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8-11	4,302	8.46
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,830	3.60
株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700	1,346	2.65
SCREEN取引先持株会シンクロナイズ	京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1	913	1.79
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	912	1.79
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海トリトンスクエアタワーZ	865	1.70
株式会社滋賀銀行	滋賀県大津市浜町1番38号	848	1.67
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	784	1.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	東京都中央区晴海1丁目8-11	753	1.48
計	—	18,763	36.94

(注) 1 上記のほか、自己株式が3,831千株（発行済株式総数に対する所有株式数の割合7.54%）あります。

2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）、資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）および日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）の所有株式数は信託業務に係るものであります。

3 公衆の縦覧に供されている下記の大量保有報告書および変更報告書について、当社として当事業年度末現在における実質所有状況の確認ができないため、上記大株主の状況では考慮しておりません。

提出者（大量保有者）	報告義務発生日	報告義務発生日現在の保有株式数（千株）	発行済株式総数に対する保有株式数の割合（%）
アセットマネジメントOne株式会社	平成28年10月14日	3,266	6.43
三菱UFJ信託銀行株式会社	平成29年3月27日	2,392	4.71



(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,831,700	—	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 46,877,200	468,772	同上
単元未満株式	普通株式 85,966	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	50,794,866	—	—
総株主の議決権	—	468,772	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式200株(議決権2個)が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式98株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社SCREEN ホールディングス	京都市上京区堀川通寺之内 上る4丁目天神北町1番地 の1	3,831,700	—	3,831,700	7.54
計	—	3,831,700	—	3,831,700	7.54

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得、会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得および会社法第155条第9号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第9号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年10月28日)での決議状況 (取得期間 平成28年10月28日～平成28年10月28日)	606	4,096,560
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	606	4,096,560
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	—	—

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年2月6日)での決議状況 (取得期間 平成29年3月1日～平成29年3月22日)	330,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	261,400	1,999,390,996
残存決議株式の総数及び価額の総額	68,600	609,004
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	20.8	0.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	20.8	0.0

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	10,351	23,878,213
当期間における取得自己株式	498	4,030,810

- (注) 1. 平成28年10月1日付で普通株5株を1株に併合しました。当事業年度における取得自己株式10,351株の内訳は、株式併合前8,358株、株式併合後1,993株です。
2. 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (株式併合による減少)	14,271,366	—	—	—
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡)	42	157,919	—	—
保有自己株式数	3,831,798	—	3,832,296	—

- (注) 1. 平成28年6月28日開催の第75回定時株主総会決議に基づき、平成28年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行っております。当事業年度における「その他 (単元未満株式の買増請求による売渡)」株式数42株の内訳は、株式併合後42株であります。
2. 当期間における処理自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式数は含めておりません。
3. 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、期末配当の年一回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当社は、将来の事業環境の変化に対応できる財務体質の健全性維持や成長投資に必要な内部留保の充実に努めるとともに、中期3カ年経営計画「Challenge2016」(平成27年3月期～平成29年3月期)の目標値である連結営業利益率10%以上、連結自己資本比率50%以上への進捗状況や各事業年度の収益動向を加味しながら、連結総還元性向25%を目標とすることを当期の基本方針としております。

当事業年度の配当につきましては、上記の基本方針に基づき、中期3カ年経営計画の目標値に対して一定成果をあげられたことを踏まえ、1株当たり87円に決定いたしました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年6月27日 定時株主総会決議	4,085	87

なお、次期より基本方針を以下のように変更しております。

当社グループは、将来の事業環境の変化に対応できる財務体質の健全性維持や成長投資に必要な内部留保の充実に勘案した上で、株主の皆様への利益還元として連結総還元性向25%以上を目標といたします。

#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	772	675	1,004	978	8,330 (1,370)
最低(円)	361	410	411	510	6,220 (802)

(注) 1. 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2. 平成28年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施したため、第76期の株価については当該株式併合後の最高・最低株価を記載し、( )内に、当該株式併合前の最高・最低株価を記載しております。

##### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月
最高(円)	7,210	7,240	7,340	7,310	7,970	8,330
最低(円)	6,310	6,590	6,220	6,600	6,760	7,450

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員の状況】

男性13名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 取締役社長	最高経営 責任者 (CEO)	垣内 永次	昭和29年4月3日	昭和56年4月 当社入社 平成12年7月 DAINIPPON SCREEN GRAPHICS(USA),LLC (現 SCREEN GP Americas,LLC) 社長 平成17年4月 当社執行役員 当社メディアテクノロジーカンパニー社長 平成18年4月 当社上席執行役員 平成19年4月 当社常務執行役員 当社半導体機器カンパニー社長 平成22年4月 当社安全保障貿易、GPS、セールスプロ モーションサポート担当 平成23年4月 当社IR、安全保障貿易、GPS、グルー プG10担当 平成23年6月 当社取締役 平成24年4月 当社広報・IR、GPS、G10担当 平成26年4月 当社代表取締役(現在) 当社取締役社長(現在) 当社最高執行責任者(COO) 平成26年8月 株式会社SCREENセミコンダクターソリュー ションズ取締役(現在) 株式会社SCREENグラフィックアンドプレシ ジョンソリューションズ(現 株式会社 SCREENグラフィックソリューションズ) 取 締役(現在) 株式会社SCREENファインテックソリューシ ョンズ取締役(現在) 平成28年4月 当社最高経営責任者(CEO) (現在) 平成28年6月 株式会社SCREENアドバンスシステムソリ ューションズ取締役(現在) 平成28年12月 株式会社SCREEN PEソリューションズ取締 役(現在)	(注3)	24

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 専務取締役	C S R 経営 担当	南 島 新	昭和30年11月25日	昭和53年4月 当社入社 平成14年4月 当社ビジネスサービスセンター理財統轄部 経理部長 平成17年4月 当社理財カンパニー社長 平成21年4月 当社執行役員 平成21年10月 当社ビジネスサービスセンター副センター 長 平成23年6月 当社取締役 当社ビジネスサービスセンター長 平成25年5月 当社経営戦略本部長 平成26年4月 当社管理本部副本部長 平成26年6月 当社常務取締役 平成26年8月 株式会社SCREENビジネスサポートソリュー ションズ取締役会長 平成26年10月 当社総務・人事担当 平成27年6月 当社C S R 担当 平成28年4月 当社代表取締役〈現在〉 当社専務取締役〈現在〉 当社C S R 経営担当〈現在〉 株式会社SCREENマニファクチャリングサ ポートソリューションズ取締役〈現在〉 株式会社SCREENビジネスサポートソリュー ションズ取締役〈現在〉 平成28年6月 株式会社SCREEN IPソリューションズ取締 役〈現在〉	(注3)	13
常務取締役	経営戦略 担当	沖 勝 登 志	昭和33年6月2日	昭和56年4月 日本生命保険相互会社入社 平成7年3月 ニッポン・ライフ・インシュアランス・カ ンパニー・オブ・アメリカ出向 平成14年3月 日本生命保険相互会社広島支社副支社長 平成16年3月 同社那覇支社長 平成19年3月 同社大阪都心南支社長 平成21年3月 同社本店総合法人第二部総合法人部長 平成23年4月 当社入社 当社ビジネスサービスセンター副センター 長 平成24年4月 当社常務執行役員 平成25年6月 当社取締役 平成26年4月 当社経営戦略本部長 当社広報・I R、G P S、G 1 0 担当 平成26年6月 当社常務取締役〈現在〉 平成26年8月 株式会社SCREENセミコンダクターソリュー ションズ取締役〈現在〉 株式会社SCREENファインテックソリュー ションズ取締役〈現在〉 平成26年10月 当社経営戦略担当〈現在〉	(注3)	7

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	最高技術責任者 (CTO)	難原 壮一	昭和32年12月2日	昭和61年4月 平成9年7月 平成13年4月 平成16年4月 平成16年10月 平成18年4月 平成23年4月 平成25年4月 平成26年6月 平成26年8月 平成26年10月 平成28年4月 平成28年6月 平成28年12月	株式会社東芝入社 同社プロセス技術研究所開発主査 同社セミコンダクター社プロセス技術推進センターグループ長 当社入社 当社半導体機器カンパニー技術統轄担当部長 当社半導体機器カンパニー副社長 当社執行役員 当社上席執行役員 当社最高技術責任者（CTO）（現在） 当社技術開発センター長 当社常務取締役（現在） 株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ取締役（現在） 株式会社SCREENマニュファクチャリングサポートソリューションズ取締役 当社技術開発担当 株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ（現 株式会社SCREENグラフィックソリューションズ）取締役（現在） 株式会社SCREENアドバンスドシステムソリューションズ取締役（現在） 株式会社SCREEN IPソリューションズ取締役（現在） 株式会社SCREEN PEソリューションズ取締役（現在）	(注3)	14
常務取締役	最高財務責任者 (CFO)	近藤 洋一	昭和33年9月25日	昭和57年4月 平成19年12月 平成22年5月 平成22年6月 平成25年6月 平成26年4月 平成26年6月 平成26年8月 平成26年10月	株式会社東京銀行（現 株式会社三菱東京UFJ銀行）入行 同行アジア・中国部長 同行国際審査部長 同行融資部中小企業金融円滑化室長 同行リテール融資部中小企業金融円滑化室長 同行執行役員 当社入社 当社上席執行役員 当社最高財務責任者補佐 当社ビジネスサービスセンター副センター長 当社管理本部長 当社常務取締役（現在） 当社最高財務責任者（CFO）（現在） 株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ取締役（現在） 株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ（現 株式会社SCREENグラフィックソリューションズ）取締役（現在） 株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ取締役（現在） 当社経理・財務担当	(注3)	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	総務・人事 戦略担当 東京地区 担当	安藤 公人	昭和33年12月25日	昭和56年4月 平成12年4月 平成18年4月 平成21年10月 平成23年4月 平成24年9月 平成26年4月 平成26年8月 平成26年11月 平成28年4月 平成29年6月	当社入社 当社電子部品事業本部電子部品営業部長 当社人事カンパニー社長 当社ビジネスサービスセンター人事グループ長 当社執行役員 当社ビジネスサービスセンター副センター長 当社半導体機器カンパニー副社長 当社上席執行役員 株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ取締役 同社CSR担当 同社常務執行役員 同社東京地区担当 当社取締役（現在） 当社総務・人事戦略担当（現在） 当社東京地区担当（現在）	(注3)	6
取締役		立石 義雄	昭和14年11月1日	昭和38年4月 昭和48年5月 昭和51年6月 昭和58年6月 昭和62年6月 平成15年6月 平成18年6月 平成19年5月 平成23年6月	立石電機株式会社（現 オムロン株式会社）入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社代表取締役社長 同社代表取締役会長 当社取締役（現在） 京都商工会議所会頭（現在） オムロン株式会社名誉会長（現在）	(注3)	5
取締役		村山 昇作	昭和24年9月21日	昭和47年4月 昭和56年2月 平成6年11月 平成10年6月 平成14年3月 平成14年6月 平成20年6月 平成23年6月 平成25年6月 平成26年6月 平成26年7月	日本銀行入行 同行ニューヨーク事務所エコノミスト 同行高松支店長 同行調査統計局長 帝國製菓株式会社代表取締役社長 四国化成工業株式会社社外取締役 iPSアカデミアジャパン株式会社取締役 同社代表取締役社長 当社取締役（現在） 東邦ホールディングス株式会社社外取締役（現在） 株式会社iPSポータル代表取締役社長（現在）	(注3)	1
取締役		齋藤 茂	昭和32年1月26日	昭和54年11月 昭和60年10月 昭和62年2月 平成16年9月 平成25年6月 平成27年12月	株式会社トーセ入社 同社開発本部長 同社取締役 同社代表取締役社長 同社代表取締役社長兼CEO 当社取締役（現在） 株式会社トーセ代表取締役会長兼CEO（現在）	(注3)	1



役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
常任監査役 (常勤)		宮 脇 達 夫	昭和29年5月6日	昭和55年4月 平成11年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成18年4月 平成18年7月 平成21年6月  平成23年4月 平成23年6月 平成24年6月	当社入社 当社財務本部財務部長 当社財務本部副本部長 当社執行役員 当社上席執行役員 当社コーポレート経営戦略担当 当社コーポレート人事戦略、法務、コンプライアンス、危機管理担当 当社ビジネスサービスセンター長 当社監査役(常勤) 当社常任監査役(常勤)〈現在〉	(注4)	14	
監査役 (常勤)		梅 田 昭 夫	昭和36年8月31日	昭和60年4月  平成15年10月 平成17年10月 平成21年10月 平成26年4月 平成27年4月  平成27年6月	株式会社大和銀行(現 株式会社りそな銀行) 入行 株式会社りそなホールディングス 企画部 I R室長 同社コーポレートコミュニケーション部長 株式会社りそな銀行大阪公務部長 同行人材サービス部付 当社入社 当社役員待遇 総務・人事担当付 当社監査役(常勤)〈現在〉	(注5)	0	
監査役		西川 健三郎	昭和30年11月1日	昭和53年4月 平成10年10月 平成12年6月 平成14年4月 平成16年6月 平成19年6月 平成21年6月 平成23年6月 平成26年2月  平成26年6月	株式会社滋賀銀行入行 同行祇王支店長 同行甲西中央支店長 同行丸太町支店長 同行水口支店長 同行彦根支店長 同行取締役大阪支店長 同行常務取締役 しがぎんリース・キャピタル株式会社代表取締役社長〈現在〉 当社監査役〈現在〉	(注4)	0	
監査役		西 良 夫	昭和28年1月1日	昭和51年4月 平成10年10月 平成13年2月 平成15年6月 平成17年6月 平成18年6月 平成20年6月 平成26年6月 平成27年6月 平成28年6月	株式会社京都銀行入行 同行下鴨支店長 同行市場金融部長 同行総合企画部長 同行取締役総合企画部長 同行取締役本店営業部長 同行常務取締役 同行代表取締役専務 鳥丸商事株式会社代表取締役会長〈現在〉 当社監査役〈現在〉	(注4)	0	
計								96

- (注) 1 取締役 立石義雄、村山昇作および齋藤茂は、社外取締役であります。
- 2 監査役 西川健三郎および西良夫は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役 宮脇達夫、西川健三郎および西良夫の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 梅田昭夫の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 当社では、執行役員制を導入しております。  
執行役員は4名で、常務執行役員 青木克彦（総務・人事担当）、上席執行役員 上志正博（新規事業担当）、執行役員 太田祐史（経理・財務室長）、執行役員 石川義久（経営企画室長）で構成されております。
- 7 当社は、法令に定める監査役の数に満たない場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
吉川 哲 朗	昭和22年7月28日	昭和54年10月 昭和57年4月	司法試験合格 日本弁護士連合会弁護士登録 三宅合同法律事務所（現 弁護士法人三宅法律事務所）入所	(注2)	—
		昭和61年4月 平成7年4月 平成14年10月 平成24年4月	益川・吉川合同法律事務所開設 京都弁護士会副会長 京都みらい法律事務所開設 同所所長弁護士（現在） 京都弁護士会会長		

- (注) 1 補欠監査役 吉川哲朗は、社外監査役の要件を満たしております。
- 2 補欠監査役が監査役に就任した場合の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、「未来共有」「人間形成」「技術追求」の企業理念のもと、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組むことにより、企業経営において透明性、健全性や効率性を追求し、株主をはじめとするすべてのステークホルダー（利害関係者）の総合的な利益の確保を目指しております。

当社グループでは、これを実現するためにはコーポレート・ガバナンスの実効性の確保が不可欠との認識を有しており、グループのあるべき姿とその実現に向けたグランドデザインである「経営大綱」、およびグループの全役員・従業員が心がけるべき行動規範を定めた「SCREENグループCSR憲章」、ならびにグループ会社の管理方針・管理体制などを規定する「SCREENグループ経営要綱」を定めるとともに、グループの全役員・従業員が順守すべき各種規定類を定め、グループ内のガバナンスを強化しております。

#### ② 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要および当該体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、取締役会は取締役9名（内、社外取締役3名）、監査役会は監査役4名（内、社外監査役2名）で構成されており、会計監査人を置いております。グループとしては持株会社体制を採用しており、主要4事業(注1)に関しては機動的かつ大胆な事業執行を可能とすべく事業会社としてそれぞれ分社し、持株会社である当社はグループ経営の基本方針や基本戦略および経営資源の最適配分を決定・承認するとともに各社の事業執行の監督機能を担うことにより、事業執行と監督の分離体制を構築しております。

取締役会は、グループ経営の基本方針や基本戦略、業務執行に関わる重要事項の決定・承認、および業務執行の監督を行っており、原則月1回の定例開催のほか、必要に応じて臨時の取締役会を開催しております。3分の1以上の社外取締役を選任することにより、経営監視機能を強化し、経営の客観性を維持しております。社外取締役の選任にあたっては、東京証券取引所の基準を踏まえた当社独自の「社外役員の独立性に関する基準」に沿って行っております。

なお、当社は、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するために、取締役の任期を1年としております。

また、任意の機関として、代表取締役と社外取締役で構成する指名・報酬諮問委員会を設置しております。取締役・監査役候補者ならびに取締役報酬は、当委員会の答申を経て、取締役会の決議により決定することで、公正性および客観性を確保しております。

常勤取締役、執行役員で構成される経営会議は、原則月2回開催し、必要に応じて事業会社(注2)、機能会社(注3)8社の社長が参加し、経営執行の審議を行い、取締役会および代表取締役の意思決定を補佐しております。

監査役会は、原則月2回の定例開催のほか、必要に応じて臨時の監査役会を開催しております。監査役は、監査役会が定めた監査方針、監査計画等に従い、取締役の職務執行に関する適法性監査を行うとともに、日常の監査を通じて妥当性の観点から監視しております。なお、監査役の職務を補助するため専任の従業員を配置した監査役室を設置しております。

内部監査部門およびCSR担当部門として、CSR・グループ監査室（人員14名）を設置し、グループ全体の内部監査を行うとともに、コンプライアンス、リスクマネジメント、内部統制整備等CSR関連の企画推進機能を集約し、グループ全体のCSR経営を推進しております。

##### (注1) 主要4事業：

セミコンダクターソリューション事業、グラフィックソリューション事業、ファインテックソリューション事業、PEソリューション事業の4事業（平成29年4月1日付で株式会社グラフィックアンドプレジジョンソリューションズのプリント基板関連機器事業を当社100%子会社である株式会社PEソリューションズに分割し、商号を株式会社SCREENグラフィックソリューションズに変更）

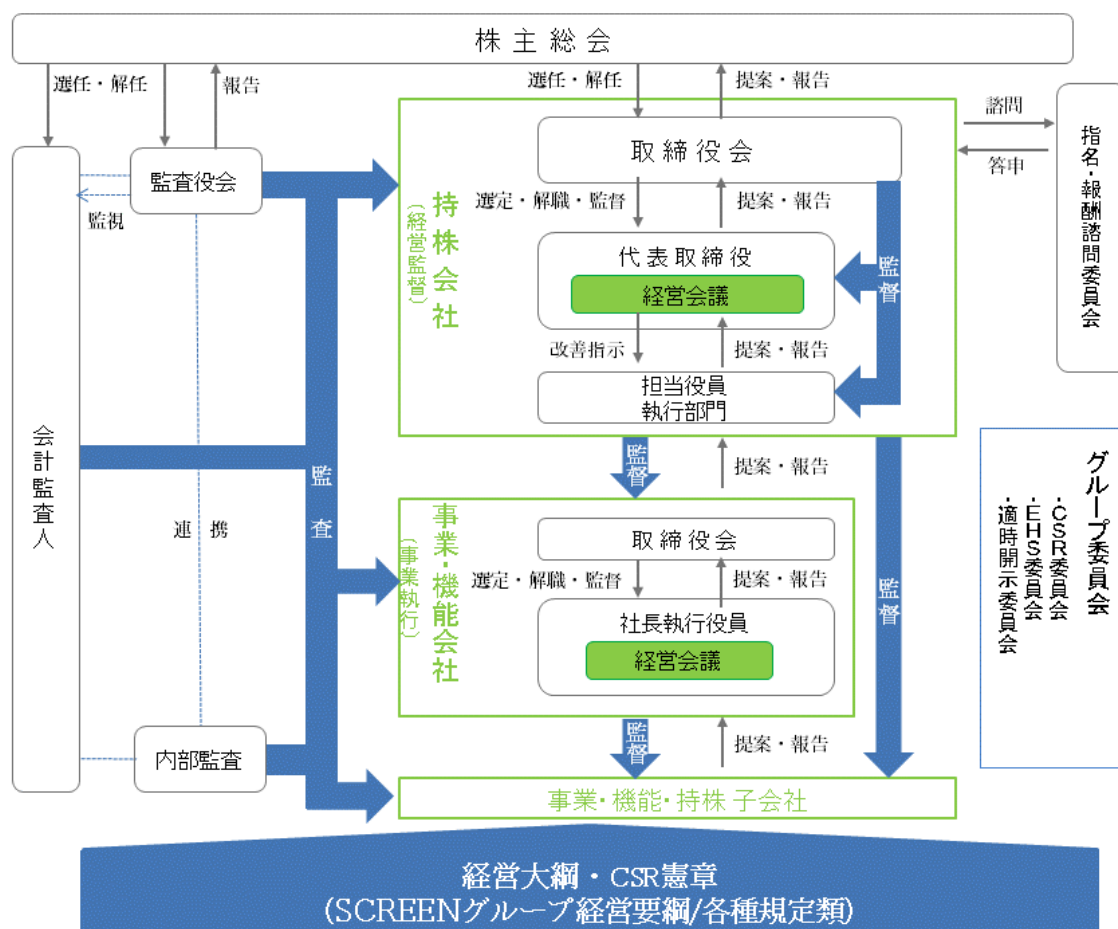
##### (注2) 事業会社：

株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ  
株式会社SCREENグラフィックソリューションズ  
株式会社SCREENファインテックソリューションズ  
株式会社SCREEN PEソリューションズ  
株式会社SCREENアドバンスドシステムソリューションズ

##### (注3) 機能会社：

株式会社SCREENマニュファクチャリングサポートソリューションズ  
株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ  
株式会社SCREEN IPソリューションズ

当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりであります。



#### ロ. 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において、「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務並びに当該株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」につき、平成29年4月28日開催の取締役会にて一部改定のうえ以下のとおり決議しております。

##### <決議内容>

当社およびSCREENグループ各社は、「未来共有」「人間形成」「技術追求」の企業理念のもと「SCREENグループCSR憲章」を定め、法令順守はもとより倫理的で透明性のある行動を通じてステークホルダーの期待に応えることにより、社会の持続可能な発展に貢献する。

この基本的な考え方にもとづいて、当社の内部統制の体制を以下のとおり構築し運用する。

(当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制)

- ・当社は、SCREENグループの事業を統轄する持株会社として、「SCREENグループ経営要綱」を定め、グループ運営の基本方針およびグループ各社の役割と責任を明確にして、グループ経営の管理体制を構築し運用する。
- ・当社は、グループ経営の観点からSCREENグループ全体に及ぶ戦略策定、経営資源の最適配分、グループ各社の業務執行状況などの管理、監督を行うことで、事業執行と監督の分離体制を構築し運用する。
- ・当社は、「SCREENグループ財務報告に係る内部統制整備要綱」を定め、当社グループの財務報告の適正性と信頼性を確保する体制を構築し運用する。
- ・当社は、「SCREENグループ経理財務要綱」「SCREENグループ会計基準」を定め、当社グループの財務状態等を把握し、財務報告および税務申告等を適正に実施する。
- ・当社は、「SCREENグループ人材マネジメント要綱」を定め、役割と業績を重視した人事制度や、従業員の多様性を尊重した能力開発、成長支援等により、多様な人材およびグローバルに活躍できる人材の育成と活用を図る。

- ・当社は、「SCREENグループIT管理規定」を定め、当社グループの情報システムの適切な運用と管理のために必要な体制を構築し運用する。
- ・当社は、「SCREENグループの情報開示に関する基本方針」を定め、当社グループの企業活動に関する情報を適時かつ正確に開示するための体制を構築し運用する。
- ・当社は、取締役、監査役、執行役員およびグループ会社の社長等で構成する連結経営会議を開催して、経営戦略や運営方針をSCREENグループ全体に徹底させるとともに、グループ内の意識の統一を図り、グループ一体となった経営を行う。
- ・当社は、グループ会社の取締役または監査役に当社または主管グループ会社（事業会社および機能会社のことをいう）の取締役、執行役員または従業員を派遣し、各社の経営状況を管理、監督する。
- ・当社は、グループ会社から直接または主管グループ会社を通じて、定期的に、営業状況、財務状況その他の業務執行状況について報告を受ける。
- ・当社は、内部監査部門を設置し、当社およびグループ会社の内部統制の体制整備の状況を監査する。監査における指摘事項については、被監査部門に改善を行わせ、内部統制の体制構築と運用に取り組む。

(取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制)

- ・当社は、取締役会を原則月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。取締役会は、重要事項の決定・承認を迅速に行うとともに、取締役の職務執行状況を監督する。
- ・当社は、効率的な職務執行ができるように各取締役への委嘱職務を取締役会で決議する。グループ会社においても同様の対応を行わせる。
- ・当社は、取締役、執行役員および従業員の職務の執行にあたっては、「責任権限規定」にもとづき、権限委譲と責任の明確化を図る。グループ会社においても同様の対応を行わせる。
- ・当社は、当社の常勤取締役および執行役員で構成する経営会議を原則月2回開催し、必要に応じ事業会社社長および機能会社社長も出席させて、経営執行の審議を行い、取締役会および代表取締役の意思決定を補佐する。

(取締役、執行役員および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制)

- ・当社は、「SCREENグループCSR憲章」のもとに行動規範を示し、全グループの取締役、執行役員および従業員への周知を徹底して、公正で透明性の高い企業経営を推進する。
- ・当社は、法務担当役員および法務部門を設置し、当社グループに関する各種の重要な契約の締結、重要な取引等に関し、法令および定款に適合することを確認する。
- ・当社は、取締役の職務執行の適法性を確保し監視機能を強化するため、社外取締役を選任する。
- ・当社は、法令違反または不正行為による不祥事の防止および早期発見を主な目的として、SCREENグループの内部通報制度を構築し運用する。当社およびグループ会社は、法令違反や不正行為の内部通報を行ったことを理由として、通報者に不利益な取り扱いをすることはしない。
- ・当社は、反社会的勢力との関係遮断や不当要求に対する拒絶等について、弁護士や警察と連携して、毅然とした姿勢で組織的に対応する。また、自治体（都道府県）が定める暴力団排除条例を順守し、反社会的勢力の活動を助長し、または反社会的勢力の運営に資することとなる利益の供与は行わない。グループ会社においても同様の対応を行わせる。

(損失の危険の管理に関する規程その他の体制)

- ・当社は、当社グループに影響を及ぼすリスクの低減に向け、「SCREENグループリスクマネジメント要綱」およびその運用規定を定めてグループ会社を含む全組織にリスク管理体制を構築運用させ、その運用状況を定期的にモニタリングする。
- ・当社は、「事業継続管理規定」を定め、リスクが顕在化した場合には、当該規定の定めに従って代表取締役社長を本部長とする災害対策本部を設置し、緊急時対策および復旧対策を実施する。

(取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制)

- ・当社は、法令および別途定める社内規定に従い、重要な会議の議事録ならびに取締役および執行役員の職務の執行に係る情報を含む重要な文書等の作成、保存および管理を行う。取締役および監査役は常時これらの文書を閲覧できる。
- ・当社は、「SCREENグループIT管理規定」等の情報システム関連規定および「営業秘密管理規定」等を定めて、情報管理を徹底する。

(監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制)

- ・監査役は、取締役会のほか、連結経営会議、経営会議その他の重要な会議または委員会に出席し、意見を述べることができる。
- ・当社は、監査役がその職務の遂行にあたり費用を要するときは、当該費用を負担する。

(監査役への報告に関する体制)

- ・当社の取締役、執行役員および従業員は、経営、財務、コンプライアンス、リスク管理、内部監査の状況等について、監査役に報告するとともに、職務執行に関し重大な法令もしくは社内ルールの違反または会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を認識したときは、直ちに監査役に報告する。
- ・グループ会社の取締役、監査役、執行役員および従業員は、職務執行に関し重大な法令もしくは社内ルールの違反または会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を認識したときは、直ちに当社の監査役に報告する。
- ・CSR担当部門は、SCREENグループの内部通報制度の運用状況および重要な事項について定期的に監査役に報告する。
- ・当社およびグループ会社は、法令違反等を監査役に報告したことを理由として、報告者に不利益な取り扱いをすることはしない。

(監査役職務を補助すべき従業員に関する事項)

- ・当社は、監査役職務を専属的に補助する部署を設け、必要な知識および能力を具備した専任の従業員を配置する。当該従業員は監査役の指揮命令に服し、当該従業員の異動、評価等人事に関する事項の決定は監査役の同意を要するものとする。

ハ. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方および整備状況

当社グループは、社会秩序や健全な企業活動を阻害する恐れのあるあらゆる団体、個人などからの要求に対しては、毅然たる態度で臨み、その要求には一切応じません。また、購入先等との契約において、相互に反社会的勢力でないことの確認を行い、万が一、反社会的勢力との関係が判明した場合、直ちに契約解除できる内容としております。

(不当要求防止責任者の設置状況)

当社では、本社の総務担当部門に不当要求防止責任者を設置しております。また、当社各事業所および子会社においては、各総務担当部門を対応窓口とし、本社の総務担当部門と連携して対応しております。

(外部の専門機関との連携状況)

当社グループでは、警察への通報や弁護士等への相談など、必要に応じて外部の専門機関と連携して反社会的勢力へ対応することとしております。

(反社会的勢力に関する情報の収集・管理状況)

本社の総務担当部門において、反社会的勢力に関する情報を収集し、必要な情報を当社グループに連絡・通達しております。

(対応マニュアルの整備状況)

「SCREENグループCSR憲章」において、反社会的勢力に対する行動規範についても定め、CSR憲章の冊子を作成して当社グループ全員に配布・周知しております。また、対応マニュアルを各事業所の対応窓口にも周知しております。

(研修活動の実施状況)

「SCREENグループCSR憲章」の社内研修において、反社会的勢力への対応について説明しております。

③ 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査部門は、代表取締役の承認を得たグループ監査年度計画書に基づき監査を行い、内部監査結果および内部統制評価結果を代表取締役に報告しております。また会計監査人と必要の都度情報交換・意見交換を行うなど、連携を密にして内部監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

監査役は、取締役会や経営会議などの重要な会議に出席するほか、取締役や執行役員等への定期的なヒアリング、重要な決裁書類等の閲覧、当社および当社グループの海外拠点を含む主要な事業所の実地監査などによって、取締役の職務の執行を監査しています。併せて、リスクマネジメントの強化に向けた取り組みの進捗状況を確認するために、CSR担当部門と定期的に意見交換を行っており、内部統制システムの構築と運用状況についても取締役および従業員などから報告を受け、必要に応じて意見を表明しております。また、監査役監査の実効性を高めるため、内部監査部門、グループ会社の監査役および会計監査人との連携を図っており、それぞれが行った監査の実施状況と結果等の報告を受けるとともに意見交換を行っております。なお、常任監査役宮脇達夫は、長年当社の経理業務を経験し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### ④ 社外取締役及び社外監査役

##### イ. 当社との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係

社外取締役立石義雄は、オムロン株式会社の名誉会長であります。当社と同社との間に取引関係はありません。社外取締役村山昇作は、株式会社iPSポータルの代表取締役社長であり、当社と同社との間には販売促進に関連する取引関係がありますが、その取引額は当社の販売費及び一般管理費の0.1%未満と僅少であります。社外取締役齋藤茂は株式会社トーセの代表取締役会長兼CEOであります。当社と同社との間に取引関係はありません。社外監査役西川健三郎は株式会社滋賀銀行の出身であり、当社と同社との間に資金の借入等の取引関係がありますが、その借入額は有利子負債の7%程度と借入依存度は突出しておりません。社外監査役西良夫は株式会社京都銀行の出身であり、当社と同社との間に資金の借入等の取引関係がありますが、その借入額は有利子負債の9%程度と借入依存度は突出しておりません。(取引額は当事業年度実績または当事業年度末残高)

なお、社外取締役および社外監査役の当社株式の保有状況については、「5 役員の状況」の所有株式数の欄に記載のとおりであります。

##### ロ. 企業統治において果たす機能及び役割並びに独立性に関する基準又は方針の内容及び選任状況に関する考え方

当社は、経営監視機能の強化と経営の客観性維持のため、企業経営等において豊富な経験を有した社外取締役を3名選任しております。また、企業経営の透明性、健全性、効率性を確保するため、豊富な知見、経験等を有した社外監査役を2名選任しております。

当社は、東京証券取引所の基準を踏まえた当社独自の「社外役員の独立性に関する基準」を制定し、それに沿って社外取締役および社外監査役の独立性について判断しております。その結果、社外取締役および社外監査役の5名全員について、業務執行を行う経営陣から独立しており、一般株主と利益相反が生じる恐れがないため、東京証券取引所に独立役員として届出しております。

##### 「社外役員の独立性に関する基準」

当社は、社外取締役および社外監査役またはその候補者が、当社において合理的に可能な範囲で調査した結果、次のいずれにも該当しないと判断される場合に、独立性を有しているものと判断します。

- 1) 就任の前10年間に於いて当社グループの取締役（社外取締役を除く）・監査役（社外監査役を除く）・執行役員（以下、併せて「役員」と総称する）または使用人であった者
- 2) 現在または過去5年間のいずれかの事業年度において、当社グループの現在の大株主である会社もしくは当社グループが現在大株主である会社の役員または使用人であった者
- 3) 当社グループの主要な取引先の役員または使用人である者
- 4) 現在または最近3年間に於いて、当社の資金調達において必要不可欠であり、代替性がない程度に依存している金融機関の役員または使用人であった者
- 5) 当社グループから多額の寄付を受けている法人・団体等の理事その他役員または使用人である者
- 6) 当社グループから取締役・監査役（常勤・非常勤を問わない）を受け入れている会社の役員である者
- 7) 現在または過去3年間のいずれかの事業年度において、当社グループの会計監査人の代表社員、社員、パートナーまたは従業員であった者
- 8) 当社グループから役員報酬以外に、多額の金銭その他の財産を得ている弁護士、公認会計士、コンサルタント等
- 9) 以下に該当する者の配偶者、二親等内の親族または同居の親族  
現在または過去5年間のいずれかの事業年度において、当社グループの役員または重要な使用人であった者（上記2)から8)で、就任を制限している者
- 10) その他、当社と利益相反関係が生じ得る特段の事由が存在すると認められる者

詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.screen.co.jp/>) に掲載しております。「(株) SCREEN ホールディングス 社外役員の独立性に関する基準」をご覧ください。

##### ハ. 内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会で内部統制評価の結果、監査役監査結果、ならびに会計監査結果について報告を受けております。

社外監査役は、取締役会での報告に加え、監査役会でCSR・グループ監査室の内部監査および内部統制評価の結果について常勤監査役より報告を受けており、会計監査人からは監査講評等の報告を受けるとともに意見交換を行っております。

⑤ 会計監査人・弁護士等の状況

当社は、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査を有限責任 あずさ監査法人に依頼しておりますが、同監査法人および当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はありません。当社は、同監査法人との間で会社法監査および金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づき報酬を支払っております。当事業年度における会計監査の体制は以下のとおりであります。

・業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 池田芳則、竹内毅、龍田佳典

(注) 継続関与年数については全員7年以内であるため記載を省略しております。

・会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 14名、その他 14名

(注) その他は、日本公認会計士協会準会員、システム監査担当者であります。

当社は、弁護士法人と法律顧問契約を締結しており、会社運営に影響を及ぼす案件に関しては必要なアドバイスを受ける体制をとっております。さらに、その他複数の法律事務所や税務顧問、コンサルタントから適時目的に応じたアドバイスおよびサポートを受けております。

⑥ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	業績連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	386	302	83	6
監査役 (社外監査役を除く)	42	42	—	2
社外役員	42	32	9	5

ロ. 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	連結報酬等の種類別の額 (百万円)		連結報酬等の 総額 (百万円)
			基本報酬	業績連動報酬	
石田 明	取締役	提出会社	90	37	128

ハ. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

使用人兼務役員はおりません。

ニ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当事業年度の取締役の報酬は、役職等に応じた基本報酬と各事業年度の業績および経営目標の達成度に基づく業績連動報酬で構成されており、代表取締役と社外取締役で構成する指名・報酬諮問委員会における審議・答申を経て、取締役会にて決議しております。監査役の報酬は基本報酬のみであり、監査役会にて協議し決定しております。なお、ストックオプション制度は採用しておらず、役員退職慰労金制度は平成17年6月28日開催の定時株主総会において廃止が決議されております。

なお、平成29年6月27日開催の第76回定時株主総会において、当社の取締役（ただし、社外取締役を除きます。以下も同様とします。）に対し、信託を用いた業績連動型株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入することについて承認を得ております。

1. 本制度の目的

本制度は、当社の株式価値と取締役の報酬との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットを享受するのみならず、株価下落リスクをも負担し、株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。



## 2. 本制度における報酬等の額・内容等

### (1) 本制度の概要

本制度は、当社が設定する信託（以下、「本信託」といいます。）に金銭を信託し、本信託において当社普通株式（以下、「当社株式」といいます。）の取得を行い、取締役に対して、取締役会が定める株式交付規定に従って付与されるポイント数に応じ、当社株式が本信託を通じて交付される株式報酬制度です。

なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

### (2) 当社が拠出する金銭の上限

本信託の信託期間は、平成30年3月末で終了する事業年度から平成32年3月末で終了する事業年度までの3年間（以下、当該3年を「当初対象期間」といい、当初対象期間および当初対象期間経過後に開始する3年ごとの期間をそれぞれ「対象期間」といいます。）とし、取締役の報酬として、本制度により当社株式を取締役に交付するのに必要な当社株式の取得資金として、対象期間中に金750百万円を上限とする金銭を拠出し、一定の要件を満たす取締役を受益者として本信託を設定します。本信託は、当社が信託した金銭を原資として、当社株式を取引所市場（立会外市場を含みます。）を通じてまたは当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得します。

注：当社が実際に本信託に信託する金銭は、前記の、当社の取締役に交付するのに必要な当社株式の取得資金のほか、当該子会社の取締役に交付するのに必要な当社株式の取得資金、信託報酬、信託管理人報酬等の必要費用の見込み額を合わせた金額となります。

なお、信託期間の満了時において、取締役会の決定により、対象期間（3年間）ごとに信託期間を延長し（当社が設定する本信託と同一の目的の信託に本信託の信託財産を移転することにより実質的に信託契約を延長することを含みます。以下も同様です。）、本制度を継続することがあります。この場合、当社は、本制度により取締役に交付するのに必要な当社株式の追加取得資金として、延長した信託期間中に金750百万円を上限とする金銭を本信託に追加拠出します。また、延長された信託期間内に後記(3)①のポイントの付与および後記(4)の当社株式の交付を継続します。

ただし、前記のようにポイント付与を継続しない場合であっても、信託期間の満了時において、既にポイントを付与されているものの未だ付与済みポイントに相当する全ての当社株式の交付を受けていない取締役がある場合には、当該取締役が未交付の当社株式の交付を受けて当社株式の交付が完了するまで、本信託の信託期間を延長することがあります。

### (3) 取締役に交付される当社株式数の算定方法と上限

#### ① 取締役に對するポイントの付与方法およびその上限

取締役会で定める株式交付規定に基づき、各取締役に對し、信託期間中の株式交付規定に定めるポイント付与日に、役位および業績に応じたポイントを付与します。

ただし、当社が取締役に付与するポイントの総数は、各対象期間ごとに75,000ポイントを上限とします。

#### ② 付与されたポイントの数に応じた当社株式の交付

取締役は、前記①で付与を受けたポイントの数に応じて、後記(4)の手續に従い、当社株式の交付を受けます。

各取締役に交付すべき当社株式の数は、当該取締役に付与されたポイント数に1.0（ただし、当社株式について、株式分割・株式併合等、交付すべき当社株式数の調整を行うことが合理的であると認められる事象が生じた場合には、かかる分割比率・併合比率等に応じて、合理的な調整を行います。）を乗じた数とします。

### (4) 取締役に對する当社株式の交付

各取締役に對する前記(3)の当社株式の交付は、各取締役がその退任時に所定の受益者確定手續を行うことにより、本信託から行われます。ただし、このうち一定の割合の当社株式については、本信託内で売却換金したうえで、当社株式に代わり金銭で交付することがあります。また、本信託内の当社株式について公開買付けに応募して決済された場合等、本信託内の当社株式が換金された場合には、当社株式に代わり金銭で交付することがあります。

⑦ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
97銘柄 32,889百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
日本電産株式会社	972,168	7,486	取引先企業との円滑な関係を維持するため
オムロン株式会社	772,033	2,586	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社京都銀行	2,942,723	2,159	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社村田製作所	127,551	1,730	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社ニコン	654,520	1,127	取引先企業との円滑な関係を維持するため
凸版印刷株式会社	1,015,700	958	取引先企業との円滑な関係を維持するため
富士フイルムホールディングス株式会社	187,010	832	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社滋賀銀行	1,708,240	809	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社ワコールホールディングス	597,711	802	会社業務をより円滑に推進するため
宝ホールディングス株式会社	749,000	694	会社業務をより円滑に推進するため
株式会社堀場製作所	157,420	661	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社島津製作所	360,996	637	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社荏原製作所	1,203,000	565	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社松風	330,000	455	会社業務をより円滑に推進するため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	871,230	454	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社小森コーポレーション	331,328	434	取引先企業との円滑な関係を維持するため
コニカミノルタ株式会社	443,767	424	取引先企業との円滑な関係を維持するため
日本写真印刷株式会社	231,083	380	取引先企業との円滑な関係を維持するため
サカイク株式会社	205,250	251	取引先企業との円滑な関係を維持するため
ダイキン工業株式会社	28,300	238	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社エスケーエレクトロニクス	315,000	233	取引先企業との円滑な関係を維持するため
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社	74,229	232	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社写真化学	690,000	224	取引先企業との円滑な関係を維持するため
光村印刷株式会社	1,000,000	219	取引先企業との円滑な関係を維持するため
共同印刷株式会社	628,310	212	取引先企業との円滑な関係を維持するため
日本ピラー工業株式会社	216,000	211	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社ジーエス・ユアサコーポレーション	429,137	206	取引先企業との円滑な関係を維持するため
大日本印刷株式会社	201,303	201	取引先企業との円滑な関係を維持するため
ウシオ電機株式会社	109,800	164	取引先企業との円滑な関係を維持するため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	458,323	151	取引先企業との円滑な関係を維持するため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
日本電産株式会社	972,168	10,300	取引先企業との円滑な関係を維持するため
オムロン株式会社	772,033	3,771	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社京都銀行	2,942,723	2,386	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社村田製作所	127,551	2,019	取引先企業との円滑な関係を維持するため
凸版印刷株式会社	1,023,520	1,161	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社滋賀銀行	1,708,240	975	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社堀場製作所	159,362	951	取引先企業との円滑な関係を維持するため
宝ホールディングス株式会社	749,000	899	会社業務をより円滑に推進するため
株式会社ワコールホールディングス	597,711	821	会社業務をより円滑に推進するため
富士フイルムホールディングス株式会社	187,010	813	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社島津製作所	360,996	638	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	871,230	609	取引先企業との円滑な関係を維持するため
日本写真印刷株式会社	231,083	609	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社小森コーポレーション	331,328	473	取引先企業との円滑な関係を維持するため
コニカミノルタ株式会社	443,767	441	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社松風	330,000	436	会社業務をより円滑に推進するため
TOWA株式会社	200,832	399	会社業務をより円滑に推進するため
株式会社エスケーエレクトロニクス	315,000	371	取引先企業との円滑な関係を維持するため
日本ビラー工業株式会社	216,000	324	取引先企業との円滑な関係を維持するため
シンフォニアテクノロジー株式会社	952,000	309	取引先企業との円滑な関係を維持するため
光村印刷株式会社	1,000,000	266	取引先企業との円滑な関係を維持するため
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社	74,229	262	取引先企業との円滑な関係を維持するため
大日本印刷株式会社	201,303	241	取引先企業との円滑な関係を維持するため
共同印刷株式会社	646,300	233	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社写真化学	690,000	224	取引先企業との円滑な関係を維持するため
株式会社ジーエス・ユアサコーポレーション	429,137	222	取引先企業との円滑な関係を維持するため
SMC株式会社	5,700	187	取引先企業との円滑な関係を維持するため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	45,832	176	取引先企業との円滑な関係を維持するため
サカティンクス株式会社	115,250	176	取引先企業との円滑な関係を維持するため
東洋インキSCホールディングス株式会社	310,000	166	取引先企業との円滑な関係を維持するため

ハ、保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

⑧ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の定めにより、社外取締役および社外監査役と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令に定める額としております。

⑨ 取締役の定数

当社の取締役は13名以内とする旨を定款で定めております。

⑩ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

⑪ 自己の株式の取得の決定機関

当社は、経営環境の変化に対応し機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

⑫ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の特別決議の定足数をより確実に充足できるようにするため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	71	3	73	5
連結子会社	14	—	15	—
計	86	3	89	5

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している公認会計士等に対して、監査証明業務に基づく報酬として97百万円、非監査業務に基づく報酬として24百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している公認会計士等に対して、非監査業務に基づく報酬として0百万円を支払っております。また、当社の連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している公認会計士等に対して、監査証明業務に基づく報酬として94百万円、非監査業務に基づく報酬として21百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、連結子会社の内部統制構築に係るアドバイザー業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、連結子会社の内部統制構築に係るアドバイザー業務と財務・税務のデューデリジェンス業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数や当社の規模・業務の特性等の要素を勘案して決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに同機構や監査法人等が行う研修へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,371	48,832
受取手形及び売掛金	65,017	57,026
電子記録債権	2,570	2,125
商品及び製品	40,955	50,770
仕掛品	28,657	32,943
原材料及び貯蔵品	7,020	8,007
繰延税金資産	5,156	5,972
その他	7,562	10,050
貸倒引当金	△789	△569
流動資産合計	188,521	215,159
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	53,578	52,603
減価償却累計額	△38,575	△38,484
建物及び構築物（純額）	15,003	14,118
機械装置及び運搬具	38,624	39,355
減価償却累計額	△26,399	△27,869
機械装置及び運搬具（純額）	12,225	11,486
土地	9,766	9,554
リース資産	6,613	6,426
減価償却累計額	△3,729	△3,970
リース資産（純額）	2,884	2,455
建設仮勘定	1,073	1,886
その他	12,270	12,375
減価償却累計額	△9,844	△10,118
その他（純額）	2,425	2,256
有形固定資産合計	43,378	41,757
無形固定資産		
リース資産	34	35
その他	2,360	2,868
無形固定資産合計	2,394	2,904
投資その他の資産		
投資有価証券	28,539	※2 33,204
長期貸付金	13	6
退職給付に係る資産	4,279	4,703
繰延税金資産	495	536
その他	3,107	2,920
貸倒引当金	△636	△532
投資その他の資産合計	35,799	40,838
固定資産合計	81,572	85,500
資産合計	270,093	300,659

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,523	26,300
電子記録債務	10,536	58,001
1年内返済予定の長期借入金	4,079	4,079
1年内償還予定の社債	13,600	—
リース債務	411	404
未払法人税等	4,430	6,509
設備関係支払手形	6	0
設備関係電子記録債務	1	6
前受金	8,023	17,188
賞与引当金	1,044	3,405
役員賞与引当金	72	82
製品保証引当金	4,564	5,761
受注損失引当金	2	88
その他	14,561	13,747
流動負債合計	120,857	135,575
固定負債		
長期借入金	18,986	10,906
リース債務	2,559	2,195
繰延税金負債	5,988	7,349
退職給付に係る負債	737	764
役員退職慰労引当金	103	130
資産除去債務	48	48
その他	524	773
固定負債合計	28,948	22,168
負債合計	149,805	157,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,044	54,044
資本剰余金	4,583	4,600
利益剰余金	71,602	92,936
自己株式	△13,272	△15,299
株主資本合計	116,957	136,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,364	12,847
為替換算調整勘定	△3,911	△4,911
退職給付に係る調整累計額	△1,761	△1,413
その他の包括利益累計額合計	2,692	6,522
非支配株主持分	638	111
純資産合計	120,288	142,915
負債純資産合計	270,093	300,659

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	259,675	300,233
売上原価	※2,※3 178,677	※2,※3 206,686
売上総利益	80,998	93,547
販売費及び一般管理費	※1,※2 57,440	※1,※2 59,815
営業利益	23,557	33,731
営業外収益		
受取利息	128	58
受取配当金	532	504
受取補償金	178	130
助成金収入	307	45
その他	627	557
営業外収益合計	1,775	1,296
営業外費用		
支払利息	1,095	818
為替差損	253	314
固定資産除却損	302	1,231
その他	503	643
営業外費用合計	2,154	3,008
経常利益	23,178	32,019
特別利益		
投資有価証券売却益	1,006	1,064
特別利益合計	1,006	1,064
特別損失		
減損損失	※4 226	※4 1,855
投資有価証券売却損	13	0
投資有価証券評価損	1	173
特別損失合計	241	2,029
税金等調整前当期純利益	23,942	31,055
法人税、住民税及び事業税	5,922	8,192
法人税等調整額	△922	△1,323
法人税等合計	4,999	6,868
当期純利益	18,943	24,186
非支配株主に帰属する当期純利益	128	17
親会社株主に帰属する当期純利益	18,815	24,168



## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	18,943	24,186
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,222	4,483
為替換算調整勘定	△2,532	△1,006
退職給付に係る調整額	△620	347
その他の包括利益合計	※ △7,376	※ 3,824
包括利益	11,567	28,011
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	11,456	27,999
非支配株主に係る包括利益	110	11

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	54,044	4,583	54,447	△12,262	100,813
当期変動額					
剰余金の配当			△1,661		△1,661
親会社株主に帰属する当期純利益			18,815		18,815
自己株式の取得				△1,010	△1,010
自己株式の処分					—
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減					—
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	17,154	△1,010	16,144
当期末残高	54,044	4,583	71,602	△13,272	116,957

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	12,586	△1,395	△1,140	10,051	648	111,513
当期変動額						
剰余金の配当				—		△1,661
親会社株主に帰属する当期純利益				—		18,815
自己株式の取得				—		△1,010
自己株式の処分				—		—
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減				—		—
連結子会社株式の取得による持分の増減				—		—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△4,222	△2,516	△620	△7,359	△9	△7,368
当期変動額合計	△4,222	△2,516	△620	△7,359	△9	8,775
当期末残高	8,364	△3,911	△1,761	2,692	638	120,288

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	54,044	4,583	71,602	△13,272	116,957
当期変動額					
剰余金の配当			△2,833		△2,833
親会社株主に帰属する当期純利益			24,168		24,168
自己株式の取得				△2,027	△2,027
自己株式の処分		0		0	0
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減		△2			△2
連結子会社株式の取得による持分の増減		19			19
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	16	21,334	△2,027	19,324
当期末残高	54,044	4,600	92,936	△15,299	136,282

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	8,364	△3,911	△1,761	2,692	638	120,288
当期変動額						
剰余金の配当				—		△2,833
親会社株主に帰属する当期純利益				—		24,168
自己株式の取得				—		△2,027
自己株式の処分				—		0
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減				—		△2
連結子会社株式の取得による持分の増減				—		19
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,483	△1,000	347	3,830	△527	3,302
当期変動額合計	4,483	△1,000	347	3,830	△527	22,627
当期末残高	12,847	△4,911	△1,413	6,522	111	142,915

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	23,942	31,055
減価償却費	5,029	5,397
減損損失	226	1,855
投資有価証券評価損益 (△は益)	1	173
投資有価証券売却損益 (△は益)	△992	△1,064
固定資産除却損	302	1,231
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△113	△12
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,044	2,360
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△53	9
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	44	1,189
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△15	86
受取利息及び受取配当金	△661	△563
支払利息	1,095	818
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,918	8,175
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8,536	△16,397
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△1,506	△1,534
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,551	14,682
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	4,045	8,920
その他	287	345
小計	19,773	56,730
利息及び配当金の受取額	675	564
利息の支払額	△1,097	△876
確定拠出年金制度への移行に伴う拠出額	△0	△0
法人税等の支払額	△4,630	△7,394
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,720	49,024
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	1,176	△1,707
有形固定資産の取得による支出	△5,458	△5,496
有形固定資産の売却による収入	98	313
投資有価証券の取得による支出	△20	△192
投資有価証券の売却による収入	2,510	2,732
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△23	—
その他	△841	△1,508
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,557	△5,860

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	4,000	1,000
長期借入金の返済による支出	△3,679	△9,079
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△398	△415
社債の償還による支出	—	△13,600
自己株式の純増減額 (△は増加)	△1,010	△2,027
配当金の支払額	△1,661	△2,833
非支配株主への配当金の支払額	△96	△3
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△513
子会社の自己株式の取得による支出	—	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,845	△27,479
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,151	△918
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,166	14,766
現金及び現金同等物の期首残高	21,990	30,156
現金及び現金同等物の期末残高	※1 30,156	※1 44,922

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲又は持分法適用に関する事項

子会社は、SCREEN GP (Thailand) Co., Ltd.を除き、すべて連結しております。

従来、子会社50社を連結の範囲に含めておりましたが、当連結会計年度において、新たに設立したSCREEN HD Shanghai Co., Ltd.、SCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd. および株式会社SCREEN PE ソリューションズを連結の範囲に含めております。

以上の結果、連結子会社は、株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ以下、国内法人27社、海外法人26社の合計53社となっております。

なお、当連結会計年度において、新たに設立したSCREEN GP (Thailand) Co., Ltd.は小規模であり、連結財務諸表に与える影響の重要性が乏しいため、連結の範囲及び持分法の適用範囲から除外しております。

### 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちSCREEN HD Korea Co., Ltd.、SCREEN Electronics Shanghai Co., Ltd.、SCREEN GP Shanghai Co., Ltd.、SCREEN GP Hangzhou Co., Ltd.、SCREEN HD Shanghai Co., Ltd.およびSCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd.の決算日は12月31日であり、これら以外の47社は3月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、これら6社については12月31日の財務諸表を採用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

### 3. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの……移動平均法による原価法

##### ② デリバティブ

時価法

##### ③ たな卸資産

主として先入先出法または個別法による原価法

（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社および国内連結子会社

主として定額法

なお、平成19年3月31日以前に取得した資産については、償却可能限度額まで償却が終了した翌連結会計年度から5年間で均等償却する方法によっております。

在外連結子会社

主として定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～60年

機械装置及び運搬具 2～17年

- ② 無形固定資産（リース資産を除く）
  - 定額法
  - なお、自社利用ソフトウェアは社内における利用可能期間（3～5年）、販売用ソフトウェアについては、その効果の及ぶ期間（3年）に基づく定額法によっております。
- ③ リース資産
  - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
  - 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
  - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
  - リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 繰延資産の処理方法
  - 社債発行費
  - 支出時に全額費用として処理しております。
- (4) 重要な引当金の計上基準
  - ① 貸倒引当金
    - 当社および国内連結子会社
    - 売掛金等債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個々の債権の回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しております。
    - 在外連結子会社
    - 売掛金等債権の貸倒損失に備えるため、主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。
  - ② 賞与引当金
  - 当社および一部の連結子会社の従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
  - ③ 役員賞与引当金
  - 一部の連結子会社は、役員賞与の支払に備えるため、当連結会計年度に対応する支給見込額を計上しております。
  - ④ 製品保証引当金
  - 当社および一部の連結子会社は、装置納入後の保証期間に係るアフターサービス費用について、過去の支出実績に基づくアフターサービス費用見込額を計上しております。
  - ⑤ 受注損失引当金
  - 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失額を合理的に見積もることが可能なものについて、翌連結会計年度以降の損失見込額を計上しております。  
（「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）に基づき正味売却価額を算定した結果、マイナスとなった場合に、当該金額を受注損失引当金として計上しております。）
  - ⑥ 役員退職慰労引当金
  - 一部の連結子会社は、役員の退職金の支払に備えるため、内規による期末要支給額全額を計上しております。
- (5) 退職給付に係る会計処理の方法
  - ① 退職給付見込額の期間帰属方法
  - 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
  - ② 数理計算上の差異の費用処理方法
  - 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については振当処理をしており、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建売上債権
金利スワップ	借入金利息

③ ヘッジ方針

当社は、外貨建金銭債権債務等に係る為替相場の変動リスクおよび借入金または社債等に係る金利変動リスクをヘッジするため、取締役会の承認を得たデリバティブ業務に関する社内規程に基づいてヘッジ取引を行っており、かつ、その取引内容は取締役会に報告しております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動を半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にしてヘッジ有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップおよび振当処理をしている為替予約については有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは5年間の定額法により償却を行っております。ただし、金額的重要性が乏しい場合には、一括償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成29年3月29日）
- ・「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成29年3月29日）

(1) 概要

指定国際会計基準又は修正国際基準に準拠した連結財務諸表を作成して、金融商品取引法に基づく有価証券報告書により開示している国内子会社又は国内関連会社を「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い」等の対象範囲に含めることとする改正であります。

(2) 適用予定日

平成30年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い」等の改正による連結財務諸表に与える影響はありません。



(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めていた「前受金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示していた22,584百万円は、「前受金」8,023百万円、「その他」14,561百万円として組み替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取家賃」(当連結会計年度86百万円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「受取家賃」に表示していた169百万円は、「その他」として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 手形割引高及び裏書譲渡高

連結決算日における受取手形の裏書譲渡高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	47百万円	47百万円

※2 非連結子会社及び関連会社に係る注記

各科目に含まれている非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	－百万円	5百万円

3 保証債務

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
従業員住宅ローン	65百万円	36百万円

4 貸出コミットメント契約

当社は、運転資金の効率的な調達および将来の資金安定確保のために、取引金融機関7社と貸出コミットメント契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメントの総額	30,000百万円	30,000百万円
借入実行残高	－	－
借入未実行残高	30,000	30,000

## (連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主な項目は下記のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
旅費交通費	2,229百万円	2,596百万円
荷造運賃	3,343	3,834
貸倒引当金繰入額	△63	△68
役員退職慰労引当金繰入額	42	57
役員賞与引当金繰入額	78	91
賞与引当金繰入額	646	1,916
役員報酬	1,611	1,548
給与手当・賞与	20,794	20,534
研究費	4,643	4,412
減価償却費	2,844	2,815
退職給付費用	1,438	963

※2 一般管理費及び当期総製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
	15,166百万円	17,794百万円

※3 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、前連結会計年度の評価損の戻入益と当連結会計年度の評価損を相殺した結果、次のたな卸資産評価損(△は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
	△234百万円	2,637百万円

※4 減損損失

前連結会計年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

前連結会計年度については、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

当連結会計年度において、当社および連結子会社は1,855百万円の減損損失を計上しております。このうち、重要な減損損失は以下のとおりであります。

(1) 減損損失を認識した資産

場所	用途	種類	減損損失金額(百万円)
京都府久世郡 久御山町他	事業用資産	機械装置等	1,753

(2) 減損損失の認識に至った経緯

株式会社グラフィックアンドプレジジョンソリューションズの資産グループから得られる見積将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 減損損失の内訳	
有形固定資産	
建物及び構築物	25百万円
機械装置及び運搬具	979
リース資産	1
その他	425
無形固定資産	
その他	219
投資その他の資産	
その他	100
計	1,753

(4) 資産のグルーピングの方法

減損会計の適用にあたり、当社グループは原則、各社を1グループ単位としてグルーピングを行っております。なお、事業の用に供していない遊休資産については、個別物件単位でグルーピングを行っております。

(5) 回収可能価額の算定方法

事業用資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、売却や他への転用が困難な資産は零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△5,336百万円	7,352百万円
組替調整額	△992	△1,064
税効果調整前	△6,329	6,287
税効果額	2,106	△1,803
その他有価証券評価差額金	△4,222	4,483
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△2,532	△1,006
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△873	△73
組替調整額	252	421
税効果調整前	△620	347
税効果額	—	—
退職給付に係る調整額	△620	347
その他の包括利益合計	△7,376	3,824

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	253,974	—	—	253,974

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	16,642	1,188	—	17,830

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会の決議に基づく自己株式の取得による増加	1,174千株
単元未満株式の買取りによる増加	14千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,661	7	平成27年3月31日	平成27年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,833	利益剰余金	12	平成28年3月31日	平成28年6月29日

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（千株）	253,974	－	203,179	50,794

(注) 平成28年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行っております。普通株式の減少203,179千株は株式併合による減少分であります。

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（千株）	17,830	272	14,271	3,831

(変動事由の概要)

平成28年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行っております。

増加数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合前に行った単元未満株式の買取りによる増加	8千株
株式併合に伴う割当端数株式の買取りによる増加	0千株
株式併合後に行った単元未満株式の買取りによる	1千株
株式併合後に行った取締役会の決議に基づく自己株式の取得による増加	261千株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合による減少	14,271千株
株式併合後に行った単元未満株式の買増しによる減少	0千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,833	12.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,085	利益剰余金	87.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	32,371百万円	48,832百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△2,215	△3,909
現金及び現金同等物	30,156	44,922

2 重要な非資金取引の内容

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産の額	37百万円	40百万円
ファイナンス・リース取引に係る債務の額	38	43

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、セミコンダクターソリューション事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、当社における建物及び構築物とセミコンダクターソリューション事業における生産設備および研究開発設備であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
1年内	428	626
1年超	687	961
計	1,116	1,588

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、年度資金計画に基づき、経営活動遂行に必要な資金の調達を金融機関からの借入および社債の発行等の方法により行っております。資金の運用は、運用資産の保全、流動性の確保を満たす運用に限定しております。デリバティブ取引は、為替変動リスク、金利変動リスク等財務に関わるリスクを回避する目的にのみ利用しており投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金および電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建ての営業債務をネットしたポジションに対して一定割合以上の先物為替予約を付すことによりヘッジしております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金および電子記録債務は、すべて1年以内の支払期日であります。

借入金、社債およびファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に営業取引および設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で8年後（借入金5年後、リース債務8年後）であります。借入金の一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち一部についてはデリバティブ取引（金利スワップ）を利用してヘッジしております。また、営業債務、借入金、社債およびファイナンス・リース取引に係るリース債務は、資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）に晒されておりますが、資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を一定額以上に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。なお、借入金に係る一部の契約には、各連結会計年度末の純資産ならびに各連結会計年度の経常損益に関する財務制限条項が付されております。これに抵触し、借入先金融機関の請求があった場合、当該借入金について期限の利益を喪失する可能性があります。この場合、当社の社債およびその他の借入金についても連動して期限の利益を喪失する可能性があります。当社が借入金等について期限の利益を喪失し、一括返済の義務を負った場合には、資金調達に係る流動性リスクに影響を及ぼす可能性があります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

ヘッジ有効性については、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動を半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にして評価しております。ただし、特例処理による金利スワップおよび振当処理をしている為替予約は、有効性の評価を省略しております。

為替予約取引を行うに際しては、基本的に外貨建債権および承認された予定取引の範囲内で行うこととしております。

これらの管理は、取締役会にて承認を得たデリバティブ業務に関する社内規程に基づいて行っており、かつ、その取引内容は半期に一度取締役会に報告しております。

金利スワップ取引および為替予約取引に係る当社のデリバティブ取引の契約先は、いずれも信用度の高い国内の銀行であるため、相手先の契約不履行によるいわゆる信用リスクは、ほとんどないと判断しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注）2参照）。

前連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	32,371	32,371	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(※1)	65,017 △789		
	64,227	64,229	1
(3) 電子記録債権	2,570	2,570	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	27,716	27,716	—
資産計	126,886	126,888	1
(1) 支払手形及び買掛金	59,523	59,523	—
(2) 電子記録債務	10,536	10,536	—
(3) 社債	13,600	13,638	38
(4) 長期借入金	23,066	23,411	345
(5) リース債務	2,970	4,699	1,729
負債計	109,696	111,809	2,113
デリバティブ取引(※2)			
(1) ヘッジ会計が適用されていないもの	129	129	—
(2) ヘッジ会計が適用されているもの	—	—	—
デリバティブ取引計	129	129	—

(※1) 受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	48,832	48,832	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(※1)	57,026 △569		
	56,457	56,459	1
(3) 電子記録債権	2,125	2,125	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	32,367	32,367	—
資産計	139,782	139,784	1
(1) 支払手形及び買掛金	26,300	26,300	—
(2) 電子記録債務	58,001	58,001	—
(3) 長期借入金	14,986	15,041	55
(4) リース債務	2,600	4,331	1,731
負債計	101,888	103,675	1,786
デリバティブ取引(※2)			
(1) ヘッジ会計が適用されていないもの	(218)	(218)	—
(2) ヘッジ会計が適用されているもの	—	—	—
デリバティブ取引計	(218)	(218)	—

(※1) 受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金および(3) 電子記録債権

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権を、債権額の決済までの期間で、市場金利等適切な指標による利率で割り引いた現在価値から信用リスク相当の貸倒引当金を控除することにより算定しております。

なお、1年内の債権については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金および(2) 電子記録債務

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金および(4) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を当該借入またはリース債務の残存期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
非上場株式	823	837

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

なお、非上場株式には、当連結会計年度は非連結子会社株式5百万円が含まれております。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	32,351	—	—	—
受取手形及び売掛金	64,547	470	—	—
電子記録債権	2,570	—	—	—
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	—	—	—	—
合計	99,469	470	—	—

当連結会計年度 (平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	48,812	—	—	—
受取手形及び売掛金	56,556	470	—	—
電子記録債権	2,125	—	—	—
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	—	—	—	—
合計	107,494	470	—	—

(注) 4 社債、借入金およびリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度 (平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	13,600	—	—	—	—	—
長期借入金	4,079	4,079	5,679	6,504	2,614	109
リース債務	411	395	369	405	466	921
合計	18,090	4,475	6,049	6,909	3,080	1,030

当連結会計年度 (平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	4,079	5,679	1,504	3,614	109	—
リース債務	404	378	414	474	394	531
合計	4,484	6,058	1,918	4,088	503	531

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	26,121	14,049	12,071
	(2) 債券			
	① 国債・ 地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	26,121	14,049	12,071
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,595	2,011	△416
	(2) 債券			
	① 国債・ 地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,595	2,011	△416
合計		27,716	16,061	11,654

(注) 1 取得原価は減損処理後の金額であります。

2 非上場株式(連結貸借対照表計上額823百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	30,880	12,787	18,092
	(2) 債券			
	① 国債・ 地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	30,880	12,787	18,092
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,486	1,632	△146
	(2) 債券			
	① 国債・ 地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,486	1,632	△146
合計		32,367	14,420	17,946

(注) 1 取得原価は減損処理後の金額であります。

2 非上場株式（連結貸借対照表計上額837百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	2,510	1,006	13
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	2,510	1,006	13

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	2,732	1,064	0
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	2,732	1,064	0

## 3. 減損処理を行ったその他有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の非上場株式について1百万円の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の非上場株式について173百万円の減損処理を行っております。

時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式の減損処理にあたっては、財政状態の悪化により実質価額が簿価に比べ50%を超えて下落した場合に、回復可能性を判断し、最終的に減損処理の要否を決定しております。

なお、上場株式の減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%を超えて下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%下落した場合には回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
通貨関連

前連結会計年度 (平成28年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	4,807	—	157	157
	ユーロ	1,921	—	5	5
	豪ドル	102	—	△0	△0
	星ドル	329	—	△2	△2
合計		7,161	—	159	159

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 買建				
	米ドル	615	—	△30	△30
合計		615	—	△30	△30

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度 (平成29年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	4,740	—	△151	△151
	ユーロ	2,909	837	△62	△62
	英ポンド	207	—	△1	△1
	豪ドル	41	—	△0	△0
	星ドル	239	—	△0	△0
合計		8,138	837	△218	△218

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度（平成28年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振 当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	1,179	—	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振 当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	55	—	(注)
	ユーロ	売掛金	216	—	(注)
合計			272	—	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度（平成28年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,940	2,100	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,100	1,260	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。



(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。当社および一部の国内連結子会社は確定給付企業年金制度にキャッシュバランスプランを採用しており、確定拠出年金制度と併用しております。キャッシュバランスプランでは、加入者ごとに積立額及び年金額の前資に相当する仮想個人口座を設け、仮想個人口座には、主として市場金利の動向に基づく利息ポイントと給与水準等に基づく資格ポイントを累積いたします。一部の国内連結子会社では、非積立型の退職一時金制度を採用しており、主として市場金利の動向に基づく利息ポイントと給与水準等に基づく資格ポイントに基づき算定された金額を引当しております。

なお、一部の国内連結子会社は、複数事業主制度の厚生年金基金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。一部の在外連結子会社は確定拠出制度を採用しております。

また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	32,012百万円	32,600百万円
勤務費用	1,468	1,506
利息費用	341	341
数理計算上の差異の発生額	△271	△335
退職給付の支払額	△1,107	△1,022
その他	158	90
退職給付債務の期末残高	32,600	33,180

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	36,043百万円	36,143百万円
期待運用収益	976	971
数理計算上の差異の発生額	△1,124	△425
事業主からの拠出額	1,179	1,176
退職給付の支払額	△1,080	△1,002
その他	149	256
年金資産の期末残高	36,143	37,119

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	32,580百万円	33,163百万円
年金資産	36,143	37,119
	△3,562	△3,955
非積立型制度の退職給付債務	20	16
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△3,542	△3,938
退職給付に係る負債	737	764
退職給付に係る資産	4,279	4,703
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△3,542	△3,938

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	1,468百万円	1,506百万円
利息費用	341	341
期待運用収益	△976	△971
数理計算上の差異の費用処理額	231	437
確定給付制度に係る退職給付費用	1,064	1,314

(注) 上記退職給付費用以外に退職加算金等を前連結会計年度354百万円、当連結会計年度97百万円支払っております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
数理計算上の差異	△620百万円	347百万円
合計	△620	347

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△1,761百万円	△1,413百万円
合計	△1,761	△1,413

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	56%	46%
株式	21	22
現金及び預金	3	4
一般勘定	20	20
オルタナティブ	-	8
合計	100	100

(注) オルタナティブは、主にマルチアセット運用ファンド等への投資であります。

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
割引率	0.9%~1.3%	0.9%~1.3%
長期期待運用収益率	3.0%	3.0%

なお、当社グループは、退職給付費用の算定に際して予想昇給率を見込んでおりません。

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度734百万円、当連結会計年度699百万円であります。

#### 4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度56百万円、当連結会計年度60百万円であります。

##### (1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
年金資産の額	43,734百万円	41,445百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	54,932	51,978
差引額	△11,198	△10,533

##### (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度	5.9%	(自 平成27年4月1日	至 平成28年3月31日)
当連結会計年度	6.2%	(自 平成28年4月1日	至 平成29年3月31日)

##### (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政上の過去勤務債務残高(前連結会計年度6,859百万円、当連結会計年度6,511百万円)及び不足金(前連結会計年度4,338百万円、当連結会計年度4,022百万円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間15年の元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金(前連結会計年度37百万円、当連結会計年度31百万円)を費用処理しております。また、年金財政計算上の不足金(前連結会計年度4,338百万円、当連結会計年度4,022百万円)については、財政再計算に基づき必要に応じて特別掛金率を引き上げる等の方法により処理されることとなります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
(流動資産)		
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	2,396百万円	2,809百万円
製品保証引当金	1,310	1,722
未払賞与・賞与引当金	1,133	1,560
たな卸資産未実現利益	1,152	1,082
その他	2,350	2,267
同一納税主体における繰延税金負債との相殺	△6	△10
繰延税金資産小計	8,336	9,432
評価性引当額	△3,180	△3,460
繰延税金資産合計	5,156	5,972
(流動負債)		
繰延税金負債		
貸倒引当金調整	△9	△1
その他	△0	△10
同一納税主体における繰延税金資産との相殺	6	10
繰延税金負債合計	△3	△1
(固定資産)		
繰延税金資産		
減価償却費	1,163	1,597
研究開発費	1,236	1,247
減損損失	786	1,361
退職給付に係る負債	585	490
繰越欠損金	18,224	14,801
その他	2,093	2,605
同一納税主体における繰延税金負債との相殺	△643	△834
繰延税金資産小計	23,444	21,269
評価性引当額	△22,948	△20,733
繰延税金資産合計	495	536
(固定負債)		
繰延税金負債		
在外子会社の留保利益	△1,477	△1,155
その他有価証券評価差額金	△3,290	△5,105
退職給付に係る資産	△1,859	△1,918
その他	△4	△4
同一納税主体における繰延税金資産との相殺	643	834
繰延税金負債合計	△5,988	△7,349

## (表示方法の変更)

前連結会計年度において、(固定資産)繰延税金資産の「その他」に含めていた「減損損失」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の(固定資産)繰延税金資産の「その他」に表示していた2,879百万円は、「減損損失」786百万円、「その他」2,093百万円として組み替えております。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率 (調整)	33.0%	30.8%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	0.3
評価性引当額	△12.3	△6.0
親会社との税率差異	△2.1	△1.9
在外子会社の留保利益	△0.1	△1.0
外国子会社配当源泉税	1.7	0.9
その他	0.1	△1.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.9	22.1

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、持株会社体制の下、製品・サービス別の事業会社を置き、各事業会社は、取り扱う製品・サービスについて国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、これら事業会社を基礎とした、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「セミコンダクターソリューション事業（以下、SE）」、「グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業（以下、GP）」および「ファインテックソリューション事業（以下、FT）」の3つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

SEは、半導体製造装置の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。GPは、印刷関連機器およびプリント基板関連機器の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。FTは、FPD製造装置等の開発、製造、販売および保守サービスを行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

各報告セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	S E	G P	F T	計				
売上高								
外部顧客への売上高	165,801	61,231	31,557	258,590	1,084	259,675	—	259,675
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	48	31	80	11,554	11,634	△11,634	—
計	165,801	61,279	31,589	258,670	12,638	271,309	△11,634	259,675
セグメント利益又は損失(△)	18,715	3,169	2,748	24,633	△1,137	23,495	62	23,557
セグメント資産	132,523	50,333	28,372	211,230	6,637	217,867	52,226	270,093
その他の項目								
減価償却費	2,490	645	88	3,224	183	3,408	1,621	5,029
減損損失	113	—	—	113	—	113	113	226
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,570	823	180	4,574	245	4,820	1,531	6,351

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフサイエンス分野等の装置の開発・製造および販売、ソフトウェアの開発、印刷物の企画・製作等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額62百万円は、事業セグメントに配分していない当社の損益などであります。

セグメント資産の調整額52,226百万円は、事業セグメントに配分していない全社資産であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	S E	G P	F T	計				
売上高								
外部顧客への売上高	205,988	54,697	38,094	298,781	1,452	300,233	—	300,233
セグメント間の内部売上高又は振替高	108	51	9	169	13,353	13,522	△13,522	—
計	206,097	54,748	38,104	298,950	14,806	313,756	△13,522	300,233
セグメント利益又は損失(△)	29,315	2,224	4,391	35,931	△1,453	34,477	△745	33,731
セグメント資産	163,898	51,000	31,825	246,724	9,054	255,779	44,880	300,659
その他の項目								
減価償却費	2,601	688	102	3,392	343	3,736	1,661	5,397
減損損失	—	1,753	—	1,753	—	1,753	102	1,855
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	5,069	1,110	296	6,477	687	7,164	1,091	8,256

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフサイエンス分野等の装置の開発・製造および販売、ソフトウェアの開発、印刷物の企画・製作等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△745百万円は、事業セグメントに配分していない当社の損益などであります。

セグメント資産の調整額44,880百万円は、事業セグメントに配分していない全社資産であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

（単位：百万円）

日本	台湾	韓国	中国	米国	欧州	その他	合計
73,229	65,575	20,666	31,996	35,732	20,160	12,314	259,675
(28.2%)	(25.2%)	(8.0%)	(12.3%)	(13.8%)	(7.8%)	(4.7%)	(100.0%)

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 ( )内は構成比であります。

###### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.	35,337	S E

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

(単位：百万円)

日本	台湾	韓国	中国	米国	欧州	その他	合計
59,385 (19.8%)	93,748 (31.2%)	20,508 (6.8%)	49,981 (16.7%)	27,245 (9.1%)	22,872 (7.6%)	26,490 (8.8%)	300,233 (100.0%)

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 ( ) 内は構成比であります。

##### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.	71,859	S E

#### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

金額的重要性が乏しいため注記を省略しております。

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

#### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。



【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）
1株当たり純資産額	2,533円41銭	3,040円79銭
1株当たり当期純利益金額	396円75銭	511円96銭

（注） 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益金額を算定しております。

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （平成28年3月31日）	当連結会計年度 （平成29年3月31日）
純資産の部の合計額（百万円）	120,288	142,915
純資産の部の合計額から控除する金額（百万円）	638	111
（うち非支配株主持分（百万円））	(638)	(111)
普通株式に係る期末の純資産額（百万円）	119,649	142,804
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数（千株）	47,228	46,963

4 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益金額（百万円）	18,815	24,168
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額（百万円）	18,815	24,168
普通株式の期中平均株式数（千株）	47,424	47,207

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	4,079	4,079	1.1	—
1年以内に返済予定のリース債務	411	404	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	18,986	10,906	1.0	平成30年9月～ 平成33年9月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	2,559	2,195	—	平成30年4月～ 平成38年2月
合計	26,036	17,586	—	—

- (注) 1 長期借入金の平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているものが含まれているため、記載しておりません。  
 3 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	5,679	1,504	3,614	109
リース債務	378	414	474	394

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	62,250	136,142	210,015	300,233
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	5,053	11,729	21,173	31,055
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(百万 円)	3,716	9,459	16,337	24,168
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	78.69	200.29	345.93	511.96

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	78.69	121.60	145.64	166.11

※ 平成28年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,435	18,400
受取手形	12	27
売掛金	※2 45	※2 223
たな卸資産	※1 416	※1 757
未収入金	※2 49,361	※2 53,776
関係会社短期貸付金	※2 11,023	※2 6,067
繰延税金資産	119	—
その他	※2 137	※2 265
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	80,538	79,507
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,604	11,007
構築物	659	616
機械及び装置	797	900
車両運搬具	1	0
工具、器具及び備品	803	820
土地	8,883	8,860
リース資産	1,915	1,674
建設仮勘定	8	133
有形固定資産合計	24,673	24,014
無形固定資産		
	815	896
投資その他の資産		
投資有価証券	28,263	32,889
関係会社株式	53,783	54,190
関係会社出資金	341	344
関係会社長期貸付金	※2 180	※2 1,321
差入保証金	739	810
長期前払費用	1,716	1,479
その他	834	763
貸倒引当金	△291	△280
投資その他の資産合計	85,567	91,519
固定資産合計	111,056	116,429
資産合計	191,594	195,936

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	7,488	1,570
電子記録債務	8,693	51,654
買掛金	※2 349	※2 318
関係会社短期借入金	※2 24,051	※2 34,950
1年内返済予定の長期借入金	4,079	4,079
1年内償還予定の社債	13,600	—
リース債務	163	201
未払金	※2 30,324	※2 1,209
未払費用	※2 609	※2 447
未払法人税等	9	84
預り金	※2 246	※2 67
賞与引当金	243	474
その他	418	24
流動負債合計	90,277	95,083
固定負債		
長期借入金	18,986	10,906
リース債務	1,877	1,676
繰延税金負債	3,901	5,695
資産除去債務	48	48
その他	349	348
固定負債合計	25,164	18,675
負債合計	115,441	113,758
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	54,044	54,044
資本剰余金		
その他資本剰余金	4,583	4,583
資本剰余金合計	4,583	4,583
利益剰余金		
利益準備金	474	758
その他利益剰余金		
圧縮積立金	8	7
繰越利益剰余金	21,960	25,262
利益剰余金合計	22,443	26,028
自己株式	△13,272	△15,299
株主資本合計	67,799	69,356
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,353	12,821
評価・換算差額等合計	8,353	12,821
純資産合計	76,152	82,177
負債純資産合計	191,594	195,936

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	※1, ※3 316	※1, ※3 519
営業収益	※3 21,271	※3 20,963
営業収益合計	21,587	21,483
売上原価	※1, ※3 262	※1, ※3 378
売上総利益	※1 53	※1 140
販売費及び一般管理費	※2, ※3 14,698	※2, ※3 14,765
営業利益	6,626	6,339
営業外収益		
受取利息	※3 140	※3 59
受取配当金	516	489
その他	※3 381	※3 78
営業外収益合計	1,038	627
営業外費用		
支払利息	※3 912	※3 888
社債利息	239	64
為替差損	23	24
固定資産除却損	107	94
その他	※3 122	※3 153
営業外費用合計	1,405	1,225
経常利益	6,260	5,741
特別利益		
投資有価証券売却益	1,036	1,064
関係会社貸倒引当金戻入額	—	2
特別利益合計	1,036	1,067
特別損失		
投資有価証券評価損	1	173
減損損失	113	102
その他	25	0
特別損失合計	140	275
税引前当期純利益	7,156	6,533
法人税、住民税及び事業税	202	12
法人税等調整額	△137	102
当期純利益	7,091	6,418

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		その他資本剰余金	資本剰余金合計		圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	54,044	4,583	4,583	308	9	16,695	17,013
当期変動額							
利益準備金の積立			－	166		△166	－
税率変更に伴う圧縮積立金の調整額			－		0	△0	－
圧縮積立金の取崩			－		△1	1	－
剰余金の配当			－			△1,661	△1,661
当期純利益			－			7,091	7,091
自己株式の取得			－				－
自己株式の処分			－				－
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			－				－
当期変動額合計	－	－	－	166	△0	5,264	5,430
当期末残高	54,044	4,583	4,583	474	8	21,960	22,443

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△12,262	63,378	12,550	12,550	75,929
当期変動額					
利益準備金の積立		－		－	－
税率変更に伴う圧縮積立金の調整額		－		－	－
圧縮積立金の取崩		－		－	－
剰余金の配当		△1,661		－	△1,661
当期純利益		7,091		－	7,091
自己株式の取得	△1,010	△1,010		－	△1,010
自己株式の処分		－		－	－
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		－	△4,196	△4,196	△4,196
当期変動額合計	△1,010	4,420	△4,196	△4,196	223
当期末残高	△13,272	67,799	8,353	8,353	76,152

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		その他資本剰余金	資本剰余金合計		圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	54,044	4,583	4,583	474	8	21,960	22,443
当期変動額							
利益準備金の積立			—	283		△283	—
税率変更に伴う圧縮積立金の調整額			—				—
圧縮積立金の取崩			—		△0	0	—
剰余金の配当			—			△2,833	△2,833
当期純利益			—			6,418	6,418
自己株式の取得			—				—
自己株式の処分		0	0				—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			—				—
当期変動額合計	—	0	0	283	△0	3,301	3,584
当期末残高	54,044	4,583	4,583	758	7	25,262	26,028

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△13,272	67,799	8,353	8,353	76,152
当期変動額					
利益準備金の積立		—	—	—	—
税率変更に伴う圧縮積立金の調整額		—	—	—	—
圧縮積立金の取崩		—	—	—	—
剰余金の配当		△2,833	—	—	△2,833
当期純利益		6,418	—	—	6,418
自己株式の取得	△2,027	△2,027	—	—	△2,027
自己株式の処分	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		—	4,467	4,467	4,467
当期変動額合計	△2,027	1,557	4,467	4,467	6,025
当期末残高	△15,299	69,356	12,821	12,821	82,177

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの……………移動平均法による原価法

#### (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

#### (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準

原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

評価方法

商品……………先入先出法または個別法

貯蔵品……………個別法

### 2. 固定資産の減価償却方法

#### (1) 有形固定資産……………定額法

(リース資産を除く)

なお、平成19年3月31日以前に取得した資産については、償却可能限度額まで償却が終了した翌事業年度から5年間で均等償却する方法によっております。

#### (2) 無形固定資産……………定額法

(リース資産を除く)

なお、自社利用ソフトウェアは社内における利用可能期間(3～5年)、また販売用ソフトウェアについては、その効果の及ぶ期間(3年)に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産……………所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 繰延資産の処理方法

社債発行費……………支出時に全額費用として処理しております。

### 4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金……………売掛金等債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個々の債権の回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金……………従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

また、当事業年度末において年金資産が退職給付債務(未認識数理計算上の差異を除く)を上回っているため、その差額を投資その他の資産の「長期前払費用」の区分に計上しており、退職給付引当金の残高はありません。

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。



## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### (1) ヘッジ会計の方法

#### ① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については振当処理をしており、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を採用しております。

#### ② ヘッジ手段とヘッジ対象

<u>ヘッジ手段</u>	<u>ヘッジ対象</u>
為替予約	外貨建売上債権および外貨建借入金
金利スワップ	借入金利息

#### ③ ヘッジ方針

当社は、外貨建金銭債権債務等に係る為替相場の変動リスクおよび借入金または社債等に係る金利変動リスクをヘッジするため、取締役会の承認を得たデリバティブ業務に関する社内規程に基づいてヘッジ取引を行っており、かつ、その取引内容は取締役会に報告しております。

#### ④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計または相場変動を半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にしてヘッジ有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップおよび振当処理をしている為替予約については有効性の評価を省略しております。

### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「助成金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「助成金収入」283百万円、「その他」97百万円は、「営業外収益」の「その他」381百万円として組み替えております。

前事業年度において、独立掲記していた「特別損失」の「投資有価証券売却損」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「投資有価証券売却損」13百万円は、「特別損失」の「その他」13百万円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
商品	409百万円	751百万円
貯蔵品	6	6

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを含む)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期金銭債権	59,331百万円	58,051百万円
長期金銭債権	180	1,321
短期金銭債務	24,682	35,459

3 保証債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)		当事業年度 (平成29年3月31日)
(1) 関係会社の取引(銀行借入等)に対する保証債務		(1) 関係会社の取引(契約履行等)に対する保証債務	
SCREEN SPE Germany GmbH	349百万円	株式会社SCREENファイン テックソリューションズ	542百万円
	46 (366千ユーロ)		26 (1,600千中国元)
株式会社SCREENファイン テックソリューションズ	135 (1,200千米ドル)		22 (200千米ドル)
	129	株式会社SCREENグラフィック アンドプレジジョンソリ ューションズ	150
株式会社SCREENセミコン ダクターソリューションズ	0 (2千米ドル)	SCREEN GP Americas, LLC	123 (1,100千米ドル)
		SCREEN SPE Germany GmbH	13 (109千ユーロ)
		株式会社SCREENセミコン ダクターソリューションズ	1 1 (16千米ドル)
(2) 従業員住宅ローンに対する保証債務	65百万円	(2) 従業員住宅ローンに対する保証債務	36百万円
(3) 関係会社の一括支払信託債務に係る金融機関に対する併存的債務引受		(3) 関係会社の一括支払信託債務に係る金融機関に対する併存的債務引受	
株式会社テックインテック	1,448百万円	該当事項はありません。	
株式会社メディアテクノロジー ジャパン	613		
株式会社トランザップ ジャパン	397		
株式会社ジェラン	292		
株式会社FEBACS	230		
(4) 関係会社の電子記録債務に係る金融機関に対する併存的債務引受		(4) 関係会社の電子記録債務に係る金融機関に対する併存的債務引受	
株式会社テックインテック	105百万円	株式会社テックインテック	407百万円
株式会社メディアテクノロジー ジャパン	57	株式会社トランザップ ジャパン	302

前事業年度 (平成28年3月31日)		当事業年度 (平成29年3月31日)	
株式会社トランザップ ジャパン	12	株式会社メディアテクノロジー ジャパン	260
株式会社FEBACS	5	株式会社FEBACS	112
株式会社ジェラン	3	株式会社ジェラン	24
(5) 関係会社の法人カード決済に係る保証債務		(5) 関係会社の法人カード決済に係る保証債務	
株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ	35百万円	株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ	46百万円
株式会社SCREENファインテックソリューションズ	8	株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ	10
株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ	7	株式会社SCREENファインテックソリューションズ	7
株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ	1	株式会社SCREENアドバンストシステムソリューションズ	1
株式会社SCREENマニュファクチャリングサポートソリューションズ	0	株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ	1
		株式会社SCREEN IP ソリューションズ	0
		株式会社SCREENマニュファクチャリングサポートソリューションズ	0

上記のうち、外貨建保証債務は決算日の為替相場により換算しております。

#### 4 貸出コミットメント契約

運転資金の効率的な調達および将来の資金安定確保のために、取引金融機関7社と貸出コミットメント契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメントの総額	30,000百万円	30,000百万円
借入実行残高	—	—
借入未実行残高	30,000	30,000

(損益計算書関係)

※1 売上総利益は売上高から売上原価を控除した金額を示しております。

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度0%、当事業年度0%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度100%、当事業年度100%であります。主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
給与手当・賞与	3,695百万円	3,344百万円
賞与引当金繰入額	243	474
研究費	1,476	1,782
減価償却費	1,680	1,846
退職給付費用	232	174
委託サービス費	2,809	3,080
貸倒引当金繰入額	-	△8

※3 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高および営業収益	21,234百万円	20,947百万円
仕入高	3	47
その他の営業費用	3,469	3,953
営業取引以外の取引高	427	616

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式53,783百万円、当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式54,190百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
(流動資産)		
繰延税金資産		
未払賞与・賞与引当金	163百万円	180百万円
その他	36	75
繰延税金資産小計	200	255
評価性引当額	△81	△255
繰延税金資産合計	119	—
(固定負債)		
繰延税金資産		
関係会社株式	12,026	12,026
投資有価証券評価損	472	521
研究開発費	497	475
減損損失	472	472
繰越欠損金	13,342	13,935
その他	489	508
繰延税金資産小計	27,300	27,939
評価性引当額	△27,300	△27,939
繰延税金資産合計	—	—
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△3,287	△5,097
前払年金費用	△515	△441
その他	△98	△156
繰延税金負債合計	△3,901	△5,695

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.0%	30.8%
(調整)		
評価性引当額	2.1	13.1
外国子会社配当源泉税	2.3	0.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△36.8	△42.4
税率変更による期末繰延税金資産及び期末繰延税金負債の減額修正	△0.6	—
その他	0.9	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.9	1.8

## ④【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	11,604	148	42	703	11,007	31,914
	構築物	659	38	10	71	616	3,447
	機械及び装置	797	408	41	264	900	10,726
	車両運搬具	1	—	—	1	0	13
	工具、器具及び備品	803	344	31	295	820	3,335
	土地	8,883	80	102 (102)	—	8,860	—
	リース資産	1,915	—	—	241	1,674	2,882
	建設仮勘定	8	133	8	—	133	—
	計	24,673	1,153	235 (102)	1,557	24,014	52,320
無形固定資産	ソフトウェア等	815	407	57	269	896	800
	リース資産	—	—	—	—	—	—
	計	815	407	57	269	896	800

(注) 「当期減少額」欄の( )は内数で、当期の減損損失計上額であります。

- 1 当期増加のうち主なものは、次のとおりであります。

## 機械装置

開発用設備

395百万円

ソフトウェア

基幹システム

334百万円

- 2 当期減少のうち主なものは、次のとおりであります。

土地

熊本事業所用地

102百万円

## 【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	304	9	20	293
賞与引当金	243	474	243	474

- (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

- (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関  株主名簿管理人 事務取扱場所  取次所  手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  ——  株式の売買の委託に係る手数料相当額として、以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取りまたは買増しをした単元未満株式の数で按分した金額 買取単価または買増単価に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき0.900% (円未満の端数を生じた場合には切り捨て) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には2,500円
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 なお、電子公告は当社ウェブサイト ( <a href="http://www.screen.co.jp/">http://www.screen.co.jp/</a> ) に掲載いたします。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第75期)	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日	平成28年6月29日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類			平成28年6月29日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書 及び確認書	(第76期第1四半期)	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	平成28年8月12日 関東財務局長に提出
	(第76期第2四半期)	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	平成28年11月11日 関東財務局長に提出
	(第76期第3四半期)	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	平成29年2月13日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（議決権行使結果）の規定に基づく臨時報告書であります。			平成28年6月29日 関東財務局長に提出
(5) 訂正臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（議決権行使結果）の規定に基づく臨時報告書であります。			平成28年7月12日 関東財務局長に提出
(6) 訂正発行登録書			平成28年6月30日 関東財務局長に提出 平成28年7月12日 関東財務局長に提出
(7) 自己株券買付状況報告書			平成29年3月10日 関東財務局長に提出 平成29年4月10日 関東財務局長に提出



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年6月27日

株式会社SCREENホールディングス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 芳 則 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹内 毅 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 龍田 佳典 ㊞

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社SCREENホールディングスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社SCREENホールディングス及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社SCREENホールディングスの平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社SCREENホールディングスが平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社が）別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

# 独立監査人の監査報告書

平成29年6月27日

株式会社SCREENホールディングス

取締役会 御中

## 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 芳 則 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹内 毅 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 龍田 佳典 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社SCREENホールディングスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社SCREENホールディングスの平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月28日
【会社名】	株式会社SCREENホールディングス
【英訳名】	SCREEN Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 垣内 永次
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 近藤 洋一
【本店の所在の場所】	京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 垣内永次及び常務取締役 近藤洋一は、当社の第76期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月28日
【会社名】	株式会社SCREENホールディングス
【英訳名】	SCREEN Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 垣内 永次
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 近藤 洋一
【本店の所在の場所】	京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

取締役社長 垣内永次及び常務取締役 近藤洋一は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成29年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社、連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社32社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社21社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前々連結会計年度と前連結会計年度及び当連結会計年度の売上高の金額が高い拠点から合算していき、それぞれの連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している事業拠点を基に「重要な事業拠点」を選定しました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。